
FUT

Fukui University of Technology

DATA

BOOK

2018

大学要覧



福井工業大学
Fukui University of Technology

金井 学園 建学の精神

悠久なる日本民族の歴史と
伝統とに根ざした愛国心を培い
節義を重んずる人格の育成
科学技術の研鑽に努め、以て
人類社会の福祉に貢献する

本学の建学の精神に謳われている人格の育成は教職員が強く意識すべき
本学の教育の根幹をなす理念であり、科学技術の研鑽は教職員学生共々
自らを研鑽し、質の高い工学教育を授受することを意味している。
建学の精神の要約である本学の基本理念は、次のとおりである。

基本理念

健全な人格を身に付けた実践的な技術者を育成し
社会に送り出すことを通して社会の発展と繁栄に寄与する

INDEX

| | |
|---------------------------------|----|
| 建学の精神／基本理念 | |
| 沿革／名誉総長／歴代学長 | 02 |
| 基本組織／主要役職 | 03 |
| 主要な取組成果(2017～2018) | 04 |
| 01 教育研究上の目的 | 14 |
| 01-1 使命・目的 | |
| 01-2 教育方針 | |
| 01-3 教育目標 | |
| 01-4 教育研究上、人材養成上の目的 | |
| 02 教職員情報 | 17 |
| 02-1 教員数 | |
| 02-2 職員数 | |
| 03 入学者・在学者・卒業者の状況 | 19 |
| 03-1 教育目標とアドミッション・ポリシー | |
| 03-2 入学者 | |
| 03-3 収容定員・在学者数・除退者数 | |
| 03-4 卒業 | |
| 03-5 進学及び就職 | |
| 04 授業 | 29 |
| 04-1 カリキュラム・ポリシー | |
| 04-2 ALL CONNECT 寄附講座 | |
| 04-3 地域共生学 | |
| 05 学修の成果・卒業認定 | 36 |
| 05-1 ディプロマ・ポリシー | |
| 05-2 評価方法 | |
| 05-3 卒業・修了に必要な単位数・取得可能な学位 | |
| 06 研究 | 41 |
| 06-1 外部資金・受託研究費 | |
| 06-2 知的財産 | |
| 07 社会貢献 | 42 |
| 07-1 福井工業大学未来塾 | |
| 07-2 学科主催講座、大学連携センター(Fスクエア)開講科目 | |
| 07-3 FUT科学実験キャラバン、出前講義・出前実験 等 | |
| 07-4 ロボキャンブ | |
| 07-5 自治体との連携 | |
| 08 入学金・授業料・その他費用 | 45 |
| 08-1 入学金・授業料・その他費用 | |
| 08-2 主な奨学金制度 | |
| 08-3 学生保険 | |
| 08-4 寮・下宿 | |
| 09 決算の概要 | 48 |
| 10 学生支援・施設紹介 | 49 |
| 10-1 図書館 | |
| 10-2 クラブ活動支援センター | |
| 10-3 情報メディアセンター | |
| 10-4 キャリアセンター | |
| 10-5 地域連携研究推進センター(研究部門) | |
| 10-6 インターナショナルセンター | |
| 10-7 テクニカルサポートセンター | |
| 10-8 FUT福井城郭研究所 | |
| 10-9 学習支援室 | |
| 10-10 教職支援室 | |
| 10-11 SPEC推進室 | |
| 10-12 学生生活支援室 | |
| 11 教育研究環境 | 54 |
| 11-1 キャンパス・学内施設 | |
| 11-2 所在地及び土地・建物面積 | |

ロゴマークについて



学校法人金井学園は、創立60周年を機に学園をはじめ福井工業大学、福井工業大学附属福井高等学校、福井工業大学附属福井中学校の「絆」を大切に、一体感ある統一マークを作成しました。

本学園は、地元福井から日本へ、そして世界への貢献を使命とし教育理念に掲げていることから、新ロゴマークは、福井(FUKUI)のFをモチーフに、また生徒や学生の成長と未来への発展を願いデザインしました。

シンプルでも明るい印象のロゴマークのデザインは、福井工業大学デザイン学科の近藤晶講師によるものです。

公益財団法人 日本高等教育評価機構による 認証評価結果について



本学は、平成26年度に2度目の大学機関別認証評価を受審し、平成27年3月10日付で「大学評価基準に適合している」と認定されました。

なお、評価結果は、公益財団法人日本高等教育評価機構および本学ホームページに公表されています。

沿革

| | |
|----------|--|
| 昭和24年 4月 | 夜間の北陸電気学校を創設 |
| 昭和40年 4月 | 福井工業大学開学（電気工学科、機械工学科） |
| 昭和41年 4月 | 建設工学科設置 |
| 昭和42年 4月 | 建設工学科専攻分け（建築・土木専攻） |
| 昭和47年 4月 | 電気工学科専攻分け（電気・電子専攻） |
| 昭和48年 3月 | 電子計算機室開設 |
| 4月 | 応用物理学科設置（環境安全・原子力専攻） |
| 昭和50年10月 | カナイ産業工学研究所創設 |
| 昭和53年 4月 | カナイ産業工学研究所を福井工業大学産業工学研究所に改称 |
| 昭和54年 4月 | 応用物理学科を環境安全工学科に改称 |
| 昭和57年 4月 | 電気工学科専攻名変更（電気工学・電子工学専攻） 建設工学科専攻名変更（建築学・土木工学専攻） |
| 昭和58年 4月 | 機械工学科専攻分け（機械工学・電子機械専攻） |
| 昭和60年 4月 | 大学院工学研究科修士課程開設（機械工学・建設工学・環境安全工学専攻） 環境安全工学科専攻変更（環境工学・安全工学専攻） |
| 昭和61年 4月 | 大学院工学研究科修士課程に電気工学専攻設置 |
| 昭和62年 4月 | 経営工学科設置 |
| 昭和63年 4月 | 環境安全工学科を応用理化学科に改称、同時に専攻廃止 |
| 5月 | 金井学園電子計算機センター開設 |
| 平成元年 4月 | 大学院工学研究科の環境安全工学専攻を応用理化学専攻に改称 |
| 平成2年 4月 | 大学院工学研究科博士課程開設（電気工学・応用理化学専攻） |
| 平成9年 4月 | 福井工業大学技術システム研究館開設 |
| 平成10年 4月 | 応用理化学科専攻分け（応用科学・介護福祉工学専攻） |
| 平成11年 4月 | 経営工学科専攻分け（マルチメディア工学・経営デザイン工学専攻） |
| 平成12年 4月 | 機械工学科専攻廃止 |
| 平成13年 4月 | 宇宙通信工学科設置 電気工学科を電気電子工学科に改称し、専攻を廃止 建設工学科土木工学専攻を地球環境工学専攻に改称 |
| 平成14年 4月 | 応用理化学科応用科学専攻を環境・生命未来工学専攻に改称 福井工業大学産業工学研究所を産学共同研究センターに改組 |
| 平成15年 4月 | 応用理化学科を環境・生命未来工学科に改称し、専攻を廃止 S S L (Student Space Laboratory) 開設 |
| 平成16年 4月 | 経営工学科を経営情報学科に改称し、経営デザイン工学専攻を経営情報システム工学専攻に改称 |
| 10月 | 学生生活センター開設 |
| 平成17年 4月 | 原子力技術応用工学科設置 |
| 平成18年 4月 | 地球環境工学専攻を土木環境工学専攻に改称 学習支援センター開設 |
| 平成20年 4月 | 経営情報学科専攻廃止 |
| 平成21年 4月 | デザイン学科設置 建築学専攻を建築学科に改組 土木環境工学専攻を土木環境工学科に改組 電気電子工学科を電気電子情報工学科に改称 環境・生命未来工学科を環境生命化学科に改称 宇宙通信工学科を宇宙情報科学科に改称 学園創立60周年 |
| 平成22年 4月 | 宇宙情報科学科学生募集停止 |
| 9月 | 福井工業大学カールマイヤーグラウンド落成 |
| 平成23年 4月 | 産業ビジネス学科設置 キャリアセンター開設 |
| 5月 | 図書館付属ラーニングコモンズ開設 |
| 平成24年 4月 | 建築生活環境学科設置、建築学科、土木環境工学科学生募集停止 大学院工学研究科応用理工学専攻（博士前期課程、博士後期課程）、社会システム学専攻（博士前期課程、博士後期課程）設置 大学院工学研究科電気工学専攻（修士課程、博士後期課程）、応用理化学専攻（修士課程、博士後期課程） 機械工学専攻（修士課程）、建設工学専攻（修士課程） 情報学専攻（修士課程）学生募集停止 |
| 10月 | インターナショナルセンター開設 |
| 平成25年 5月 | F U T 福井城郭研究所開設 |
| 平成26年 4月 | クラブ活動支援センター開設 電子計算機センターを情報システムセンターに改称 |

| | |
|----------|--|
| 平成27年 4月 | 福井工業大学開学50周年 学部学科再編（3学部8学科） 環境情報学部設置 環境情報学部 環境・食品科学科設置 環境情報学部 経営情報学科設置 環境情報学部 デザイン学科設置 スポーツ健康科学部設置 スポーツ健康科学部 スポーツ健康科学科設置 工学部 電気電子情報工学科を電気電子工学科に改称 工学部 建築生活環境学科を建築土木工学科に改称 工学部 デザイン学科、経営情報学科、産業ビジネス学科、環境生命化学科学生募集停止 産学共同研究センターを地域連携研究推進センターに改称 |
| 平成29年 4月 | 入学センター開設 |
| 平成30年 2月 | 情報システムセンターを情報メディアセンターに改称 |

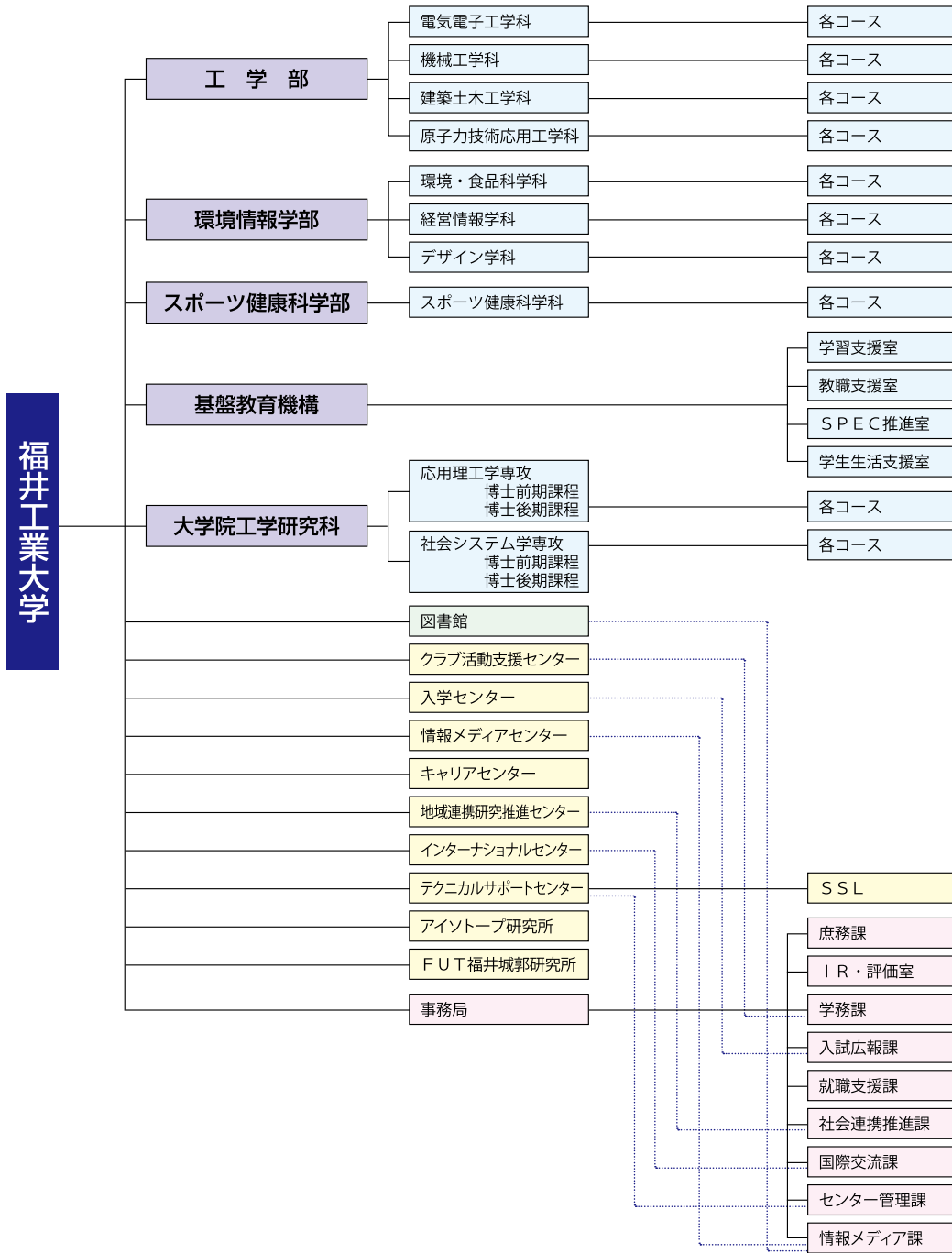
名誉総長

| 氏名 | |
|----|-------|
| 初代 | 熊谷太三郎 |
| 2代 | 山崎正昭 |

歴代学長

| 氏名 / 期間 | | 備考 |
|---------|------------------------------|----------------|
| 初代 | 熊谷太三郎 昭和40年4月1日～昭和45年10月9日 | |
| 2代 | 松村竜雄 昭和45年10月10日～昭和45年12月22日 | |
| | 熊谷太三郎 昭和45年12月23日～昭和46年1月18日 | 学長代行 (名誉総長) |
| 3代 | 高敏郎 昭和46年1月19日～昭和51年3月31日 | |
| 4代 | 疋田強 昭和51年4月2日～昭和62年3月31日 | |
| 5代 | 増田閃一 昭和62年4月1日～平成5年3月31日 | |
| 6代 | 山本勇麓 平成5年4月1日～平成8年3月31日 | |
| 7代 | 北條卓 平成8年4月1日～平成11年3月31日 | |
| 8代 | 三宅正宣 平成11年4月1日～平成19年3月31日 | |
| 9代 | 城野政弘 平成19年4月1日～平成25年3月31日 | |
| 10代 | 森島洋太郎 平成25年4月1日～平成30年3月31日 | |
| 11代 | 掛下知行 平成30年4月1日～ | |

基本組織



主要役職

| 福井工業大学 | | |
|---------------|-------|--------------|
| 学 長 | 掛下 知行 | 工学部長 |
| 副学長 | 池田 岳史 | 電気電子工学科主任 |
| 学長補佐 | 竹田 周平 | 機械工学科主任 |
| 学長補佐 | 蔵田 浩之 | 建築土木工学科主任 |
| 学務部長 | 田中 智一 | 原子力技術応用工学科主任 |
| 図書館長 | 堀池 寛 | 環境情報学部長 |
| 地域連携研究推進センター長 | 羽木 秀樹 | 環境・食品科学科主任 |
| キャリアセンター長 | 川島 洋一 | 経営情報学科主任 |
| 情報メディアセンター長 | 山西 輝也 | デザイン学科主任 |
| 国際交流センター長 | 尾崎 禎彦 | スポーツ健康科学部長 |
| クラブ活動支援センター長 | 竹田 周平 | スポーツ健康科学科主任 |
| 入学センター長 | 池田 岳史 | 基盤教育機構長 |
| アイソトープ研究所長 | 掛下 知行 | |
| FUT福井城郭研究所長 | 吉田 純一 | |

| 福井工業大学大学院 | |
|----------------|-------|
| 工学研究科委員会委員長 | 掛下 知行 |
| 〃 副委員長 | 池田 岳史 |
| 応用理工学専攻主任 | 片岡 勲 |
| 電気電子情報工学コース主任 | 青山 隆司 |
| 宇宙情報科学コース主任 | 青山 隆司 |
| 機械工学コース主任 | 片岡 勲 |
| 環境生命化学コース主任 | 矢部希見子 |
| 原子力技術応用工学コース主任 | 堀池 寛 |
| 社会システム学専攻主任 | 宇治橋康行 |
| 土木工学コース主任 | 宇治橋康行 |
| 建築学コース主任 | 宇治橋康行 |
| デザイン学コース主任 | 川島 洋一 |
| 経営情報学コース主任 | 山西 輝也 |

主要な取組成果

地域に存在感のある大学として 自治体との連携を推進しています

平成29年9月に若狭町との相互連携協定及び同町西浦地区交流促進協定を締結いたしました。交流人口の拡大・自然環境、観光資源等の有効活用、国内外に向けた情報発信などに連携して取り組んでまいります。

平成30年4月、若狭町西浦地区にて若狭町みさき漁村体験施設「みさきち」のオープン記念式典が開催されました。この施設は、本学園が指定管理者となって運営する研修宿泊施設で、魚さばき・干物づくりなど漁村体験も出来ます。閉校となった旧岬小学校の校舎が改修されたもので、環境情報学部デザイン学科の学生・教員がデザインに携わりました。今後は地域と大学とを繋ぐ拠点として、大いに活用されていくこととなります。



平成30年4月、大野市と本学との相互連携協定を締結いたしました。

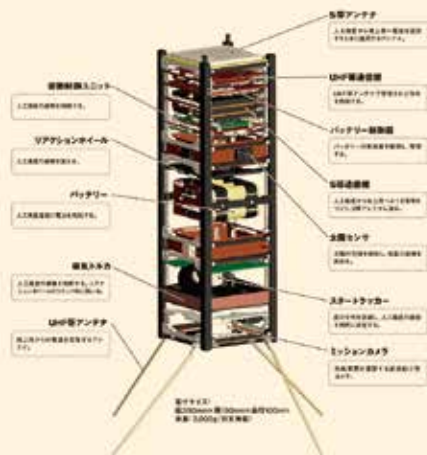
本学の『ふくいPHOENIXプロジェクト』の活動フィールドとして、大野市六呂師地区が候補に上がったことがきっかけとなり、締結に至りました。今後は産業・学術・文化・教育などの分野においてさまざまな取り組みを実施してまいります。



自治体等との連携については、44ページに記載。

「ふくいPHOENIXプロジェクト」(私立大学研究ブランディング事業)において 福井と宇宙を繋ぐさまざまな取り組みを実施中です

平成31年度の人工衛星の軌道投入に向けて、日々準備を進めております。



【スケルトンイメージ図】

FUT 超小型人工衛星：基本諸元

| | |
|--------|--|
| ミッション | 1. 地球観測 (地上分解能約60m) ①スペクトルデータに基づく植生の生育診断実験 ②夜間の人工光分布観測 2. 3U衛星の姿勢制御実験 |
| 大きさ・質量 | 3U (10cm × 10cm × 30 cm) ※1、約3kg |
| 軌道 | 円軌道、高度 400km 軌道傾斜角 51.6度 (国際宇宙ステーションを想定) |
| 姿勢制御方式 | リアクションホイールによる3軸制御(ゼロモーメントム方式) 目標指向精度 1度 |
| 通信方式 | UHF帯, FSK, 1.2kbps S帯, QPSK, 1-3Mbps |

※1. U=unit(ユニット)の略。

FUT超小型人工衛星は(10cm×10cm×10cm)を1Uとした3U衛星の構造です。

県内宇宙関連の教育施設にも模型が展示されました。



【エンゼルランドふくい】



【セーレンプラネット】



※実際に宇宙空間で使用される時は、衛星はソーラーパネルに覆われています。

(模型は平成30年3月卒業デザイン学科西川君が作成)

観光文化研究の先行的取り組みとして、平成29年9月に、福井県勝山市小原地区の伝統的保存食作りの体験と星空観望を盛り込んだ「小原夜空カフェと夜空体験」のプレツアーを実施しました。

星空観光の実現に向けて一歩を踏み出しています。



主要な取組成果

学生たちの自由な発想とチャレンジ精神を後押しする「学生プロジェクト」

授業でもクラブでもなく、学生が自分から「やってみたい」と思う工学的なプロジェクトに施設を開放し、学生たちの思い描く創造に取り組んでもらっています。教員はあくまでも手助けの「黒子」として助言するのみ。幅広いテーマのチャレンジからも様々な知識やスキルを身に着けることができます。

鳥人間プロジェクト

毎年琵琶湖で開催される「鳥人間コンテスト」。
この大会は、工学部の学生だけでなく、日本中の人に知られる夢の舞台です。
長距離飛行ができる機体性能はもちろん、独創的なアイデアなど、さまざまな観点で行われる厳しい書

類審査を通過し、大会に出場できるチームはごくわずか。

福井工業大学鳥人間プロジェクトは、「第40回鳥人間コンテスト2017」において、そのユニークな設計ポリシーが評価され5回目の出場を決めました。



設計デザインプロジェクト

「建築土木工学科」と「デザイン学科」。FUTには、建築設計を学ぶことのできる学科が2つあります。設計デザインプロジェクトは、これらの学科の学生たちに互いに意見交換をしながら、勉強会や講演会を企画・開催したり、建築設計のデザインコンペに挑戦するプロジェクトです。

それぞれの学科での学びだけでは見えなかった広い視野をもち、それらを融合させることで力をつけた学生。住宅メーカーのコンペで新聞社賞を獲得するなど、さまざまな活躍を見せています。



学生が自分で学ぶべきテーマを発見し、深めていく 「アクティブラーニング」

福井工業大学では、学生中心の能動的学習教育として、アクティブラーニングの手法を取り入れたPBL (Project Based Learning：課題解決型学習) 科目を導入しています。

アクティブラーニングを積極的に取り入れることで、学生のコミュニケーション力やチームワーク力等を養う機会を作るとともに、成功体験や達成感を体験させ、学習意欲向上につなげています。

事例紹介：

工学部 建築土木工学科

「越前市大浴場再生」

地方自治体でニーズが高まっている遊休不動産の活用方法について学んでいます。

建築コンサルティングに必要な能力を養成するため、

地域住民との協働方法、地区の将来像を具体化する空き家・空き地等の遊休不動産利活用計画、景観、修景計画の作成方法などを実践的に学んでいます。



環境情報学部 環境・食品科学科

「鯖江市河和田地区の地域団体・住民との協働による地域活性化」

地域団体と協働して、地域資源の発掘や遊休農地・空き家などの活用、湧水やホタル・オシドリなどの自然資

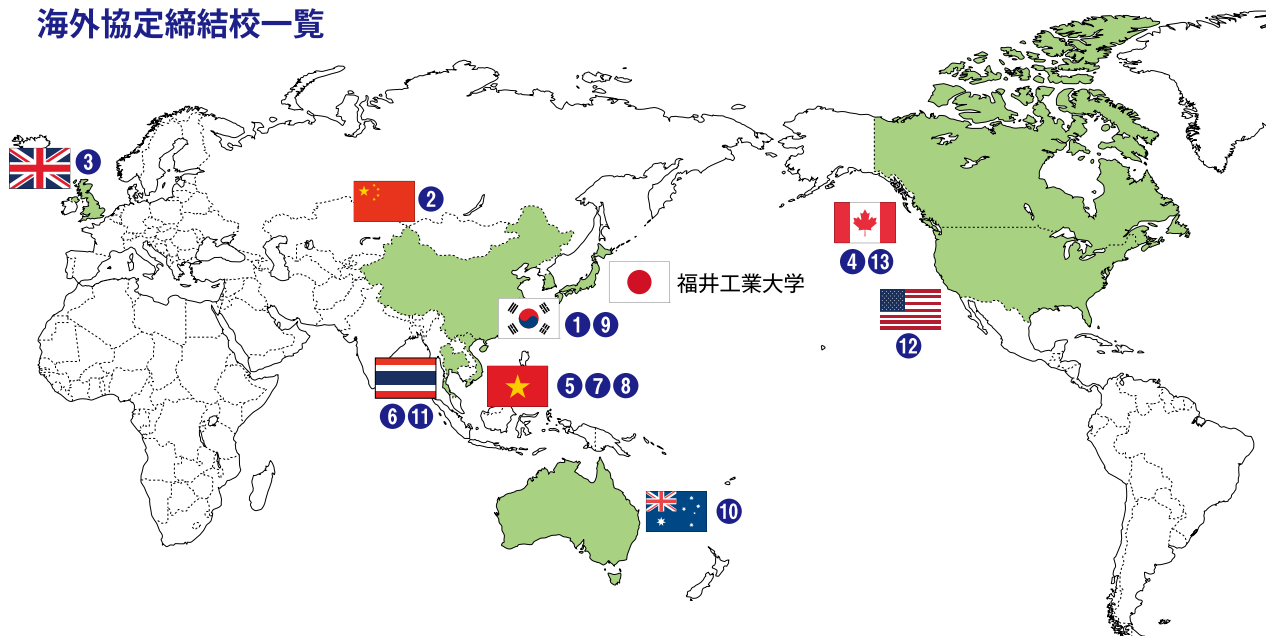
源の保全・活用などについて検討し、地域の活性化に向けて取り組んでいます。



主要な取組成果

海外協定校を中心に、 様々な国際交流を実施しています

海外協定締結校一覧



ASEAN事務所

福井工業大学は東南アジア諸国連合地域からの留学生受け入れ活動の拠点として、タイ王国・バンコクにASEAN事務所を開設。

| | |
|-------|--|
| 所在地 | バンコク県バンナー市バンナー区バンナートラッド通り1854 ネーション大学 3階 |
| 設立年月日 | 平成25年2月1日 |

大学等間交流協定

| 機関名 | 国名 | 締結年月日 | 協定種別 |
|---|---------|------------|------|
| ① カトリック関東大学校 Catholic Kwandong University | 韓国 | 昭和58年2月24日 | 学術交流 |
| ② 中南大学 Central South University | 中国 | 昭和60年6月15日 | |
| ③ グリンドゥール大学 Glyndwr University | イギリス | 平成21年6月26日 | |
| ④ オンタリオ工科大学 University of Ontario Institute of Technology | カナダ | 平成23年6月29日 | |
| ⑤ ダナン大学 The University of Da Nang | ベトナム | 平成24年6月 1日 | |
| ⑥ ネーション大学 Nation University | タイ | 平成26年1月26日 | |
| ⑦ ベトナム教育訓練省 国際教育開発局 Vietnam International Education Development of Ministry of Education and Training | ベトナム | 平成26年2月20日 | |
| ⑧ ホーチミン市工業大学 Ho Chi Minh City University of Technology | ベトナム | 平成26年7月28日 | |
| ⑨ 明知大学校 Myongji University | 韓国 | 平成28年5月27日 | |
| ⑩ サザンクロス大学 Southern Cross University | オーストラリア | 平成28年8月 5日 | |
| ⑪ ワラヤ・アロンコン・ラチャパット大学 Valaya Alongkorn Rajabhat University | タイ | 平成29年3月17日 | |
| ⑫ カリフォルニア州立大学 サンマルコス校 California State University San Marcos | アメリカ合衆国 | 平成30年3月26日 | |

部局間交流協定

| 機関名 | 部局名 | 国名 | 締結年月日 | 協定種別 |
|---|---------------|-----|------------|------|
| ⑬ オンタリオ工科大学エネルギー工学・原子力科学部 Faculty of Energy Systems and Nuclear Science University of Ontario Institute of Technology | 工学部原子力技術応用工学科 | カナダ | 平成23年6月29日 | 学術交流 |

タイ王国 ネーション大学とのジョイントシンポジウムを開催

タイ王国ランパーン県のネーション大学と締結している大学間交流協定に基づき、「FUT×NUT Joint Symposium」を毎年、各大学持ち回りで開催しています。両大学の教員・学生がそれぞれ講演やプレゼンテーションを行い、参加者は発表を通じて両国の文化を学びあい、交流を図っています。



「日本留学AWARDS 大学理工系部門」において、 4年連続大賞を獲得!

本学の日本語教育などの学習面や越前蕎麦打ち体験などの日本文化体験学習、就職指導などの留学生へのサポート、留学生向け特別奨学金制度などが高く評価され、日本語学校の教職員が外国人留学生に勧めたい進学先を選ぶ「日本語留学AWARDS」において、西日本地区私立大学理工系部門で4年連続大賞を受賞しています。



国別留学生一覧

世界9ヶ国から留学生を受け入れています。

学部

各年度5月1日現在(単位:人)

| 年度 | 中国 | | タイ | | ベトナム | | マレーシア | | モンゴル | | ミャンマー | | バングラデシュ | | ネパール | | 韓国 | | ウズベキスタン | | インドネシア | | アメリカ | | 合計 | |
|-----|----|----|----|---|------|----|-------|---|------|---|-------|---|---------|---|------|---|----|---|---------|---|--------|---|------|---|----|----|
| | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 |
| H27 | 28 | 7 | 3 | | 16 | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | | | 1 | | | | | | | | | 2 | | | 51 | 12 |
| H28 | 31 | 9 | 3 | 1 | 30 | 3 | 8 | 1 | 3 | 1 | 1 | 1 | 1 | | | 1 | | | | | | 2 | | | 78 | 18 |
| H29 | 34 | 10 | 5 | 1 | 32 | 6 | 9 | | 2 | 1 | 1 | 2 | 1 | | 1 | 1 | | | | | 1 | 1 | | | 87 | 21 |
| H30 | 32 | 10 | 4 | 1 | 28 | 10 | 8 | | 2 | | 1 | 2 | 1 | | 1 | | | | | 1 | | | | | 78 | 23 |

大学院工学研究科

各年度5月1日現在(単位:人)

| 専攻名 | 年度 | 中国 | | タイ | | ベトナム | | モンゴル | | 合計 | |
|------------|-----|----|---|----|---|------|---|------|---|----|---|
| | | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 |
| 博士 前期課程 | H27 | | | | 2 | | | | | | 2 |
| | H28 | | | 1 | 2 | 1 | | | | 2 | 2 |
| | H29 | 1 | | 2 | | 1 | | | | 4 | |
| | H30 | 3 | | 3 | | 1 | | 1 | | 8 | |
| 博士 後期課程 | H27 | | | | | | | | | | |
| | H28 | | | | | | | | | | |
| | H29 | | | | 1 | | | | | | 1 |
| | H30 | | | 1 | 1 | | | | | 1 | 1 |

海外派遣学生数

(単位:人)

| 年度 | H29 | H28 | H27 | H26 |
|-----------|-----|-----|-----|-----|
| 工学部 | 27 | 36 | 34 | 31 |
| 環境情報学部 | 23 | 6 | 2 | |
| スポーツ健康科学部 | 1 | 4 | 3 | |
| 大学院工学研究科 | | 2 | | 1 |

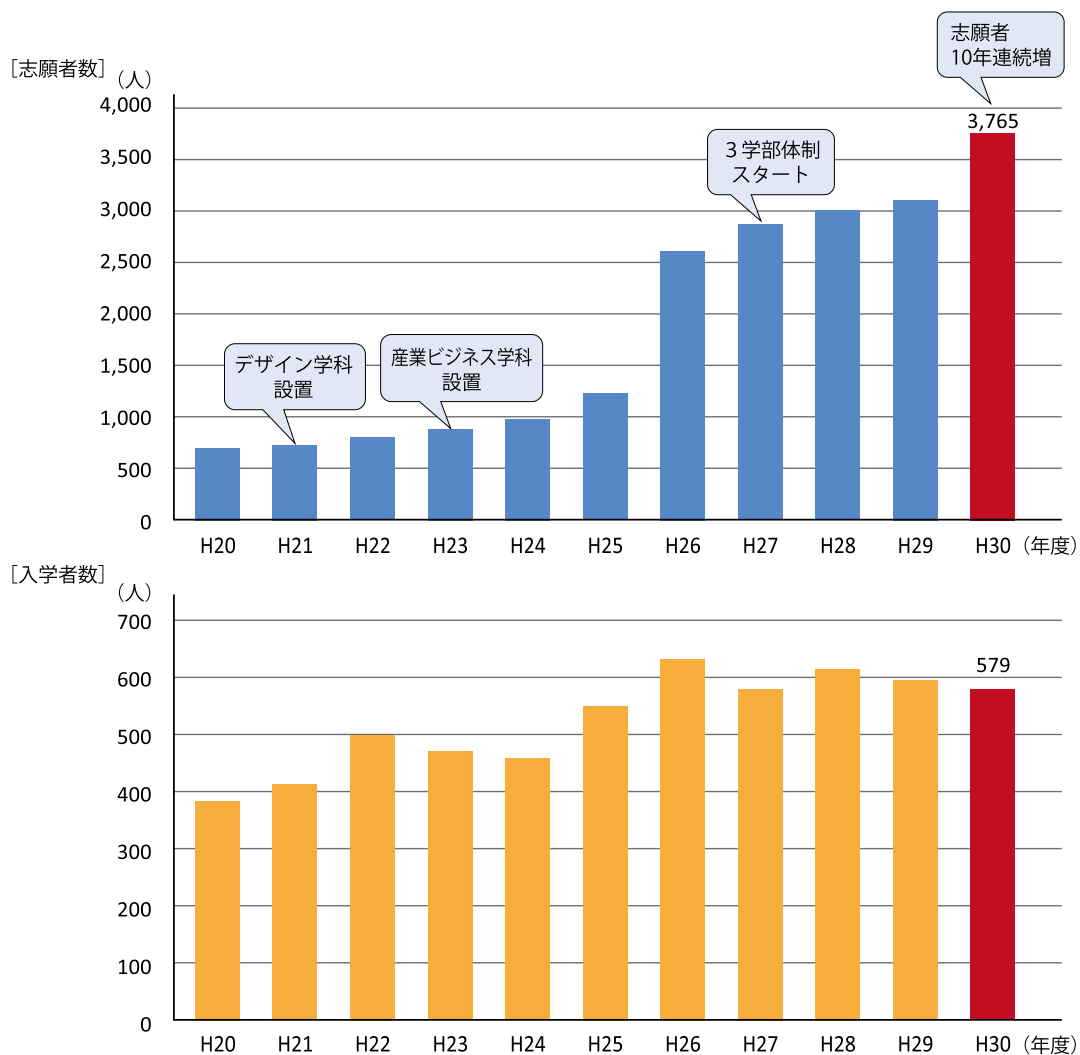
主要な取組成果

地域社会・産業界のニーズに応じて、社会にマッチした工業大学のあるべき姿を追求しています 志願者は10年連続で増加しています

ものづくりが多様化し、それらのニーズが高まる中、本学は平成27年度にこれまでの「工学部」に加え「環境情報学部」、「スポーツ健康科学部」を開設し、3学部体制の工科系総合大学へと進化を遂げ、平成30年度に完成年度を迎えました。3学部体制については、大学ホームページをはじめ各種情報媒体、オープンキャンパス、各地で開催する進学説明会等において詳細に説明・報告しております。地元だけでなく広く社会・高校生・保護者からの理解も得られ、国内外から多くの学生が入学し、本学において充実した大学生活を送っています。

志願者・入学者の推移

志願者は10年連続で増加。入学者は6年連続で定員を上回る人数を確保しています。



入学者数詳細は25ページに記載

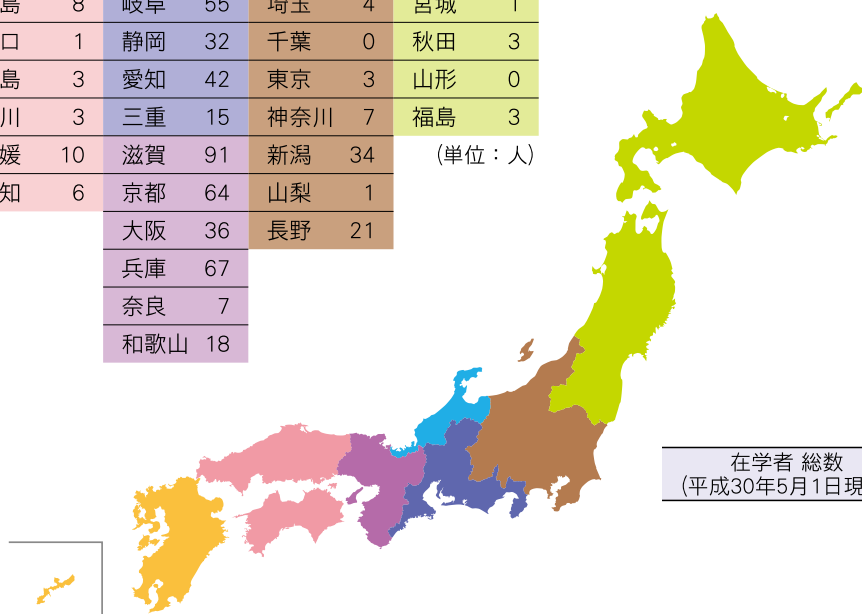
在学者における出身県別一覧

地元福井だけでなく全国43都道府県及び海外から多くの学生が本学へ入学しています。

| | | | | | | | | | |
|-----|----|----|----|-----|-------|-----|----|-----|---|
| 福岡 | 15 | 鳥取 | 6 | 富山 | 213 | 茨城 | 1 | 北海道 | 6 |
| 佐賀 | 2 | 島根 | 2 | 石川 | 166 | 栃木 | 2 | 青森 | 0 |
| 長崎 | 7 | 岡山 | 7 | 福井 | 1,209 | 群馬 | 5 | 岩手 | 7 |
| 熊本 | 4 | 広島 | 8 | 岐阜 | 55 | 埼玉 | 4 | 宮城 | 1 |
| 大分 | 1 | 山口 | 1 | 静岡 | 32 | 千葉 | 0 | 秋田 | 3 |
| 宮崎 | 0 | 徳島 | 3 | 愛知 | 42 | 東京 | 3 | 山形 | 0 |
| 鹿児島 | 3 | 香川 | 3 | 三重 | 15 | 神奈川 | 7 | 福島 | 3 |
| 沖縄 | 9 | 愛媛 | 10 | 滋賀 | 91 | 新潟 | 34 | | |
| | | 高知 | 6 | 京都 | 64 | 山梨 | 1 | | |
| | | | | 大阪 | 36 | 長野 | 21 | | |
| | | | | 兵庫 | 67 | | | | |
| | | | | 奈良 | 7 | | | | |
| | | | | 和歌山 | 18 | | | | |

(単位：人)

留学生 101

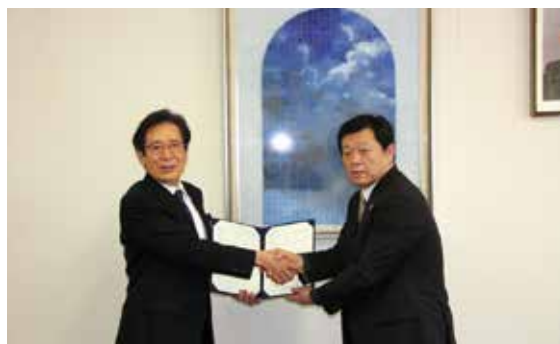


| | |
|-------------------------|-------|
| 在学者 総数 (平成30年5月1日現在) | 2,301 |
|-------------------------|-------|

高大連携に関する事業を推進しています。

本学は、基本理念に基づき、工学系総合大学として広く高校教育に携わる人々や高校生にもものづくりに関する理解を深めて欲しいと願っています。
 これまで県内外の高校へ出前講義の実施や大学見学において体験授業の機会を提供しています。

平成30年1月に京都府立田辺高等学校と「高大連携に関する協定」を締結しました。
 今後、出前講義や集中講義の実施等、双方の発展に向けて取組んでいく予定です。



主要な取組成果

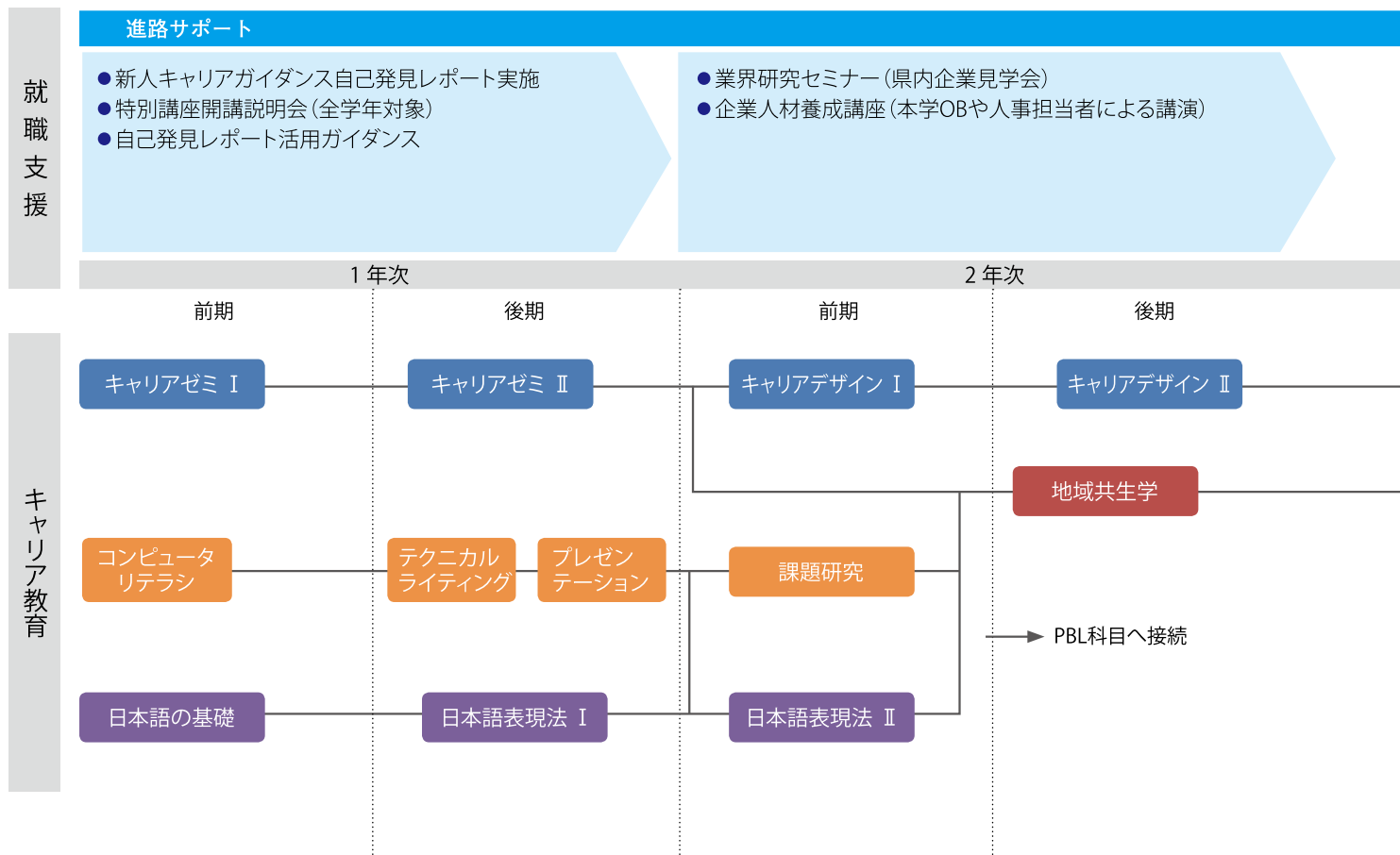
入学初年時からの充実したキャリア教育により 全国トップクラスの就職率を誇っています

本学では、入学直後から卒業に至るまで、一貫したキャリア教育と就職支援を展開しています。「キャリア形成科目」を充実させ、教員、キャリアセンタースタッフによるタイムリーかつ具体的な指導により就職の質を高めています。

就職支援では学科別に教員、キャリアセンタースタッフを配置し、学生一人ひとりにきめ細やかな支援を実施。卒業生は官公庁、地元企業をはじめとする全国の企業において様々な業種職種で活躍しています。

また、大学院進学を希望する学生に対し、その思いに沿ったアドバイスを実施し、本学大学院をはじめとする全国の大学院へ進学しています。

キャリア教育の流れ



キャリアゼミ I~IV

本学キャリア教育の中核科目として、1年次と3年次に展開されるゼミ形式の演習科目です。一方的な講義ではなく、教員や他の受講生との自由なディスカッションを通じて、社会人基礎力や職業観を段階的に磨きます。

キャリアデザイン I・II

キャリアゼミと連続して2年次に開講。仕事の意義、業界・職種の種類など、これからの職業人生を考えるために必要な知識と技術を学びます。社会で活躍する卒業生の話を直接聞けるなど、演習も充実。より具体的にキャリアについて考えます。

就職に係るデータ等詳細は28ページに記載

就職率
99.6%
2018年3月卒

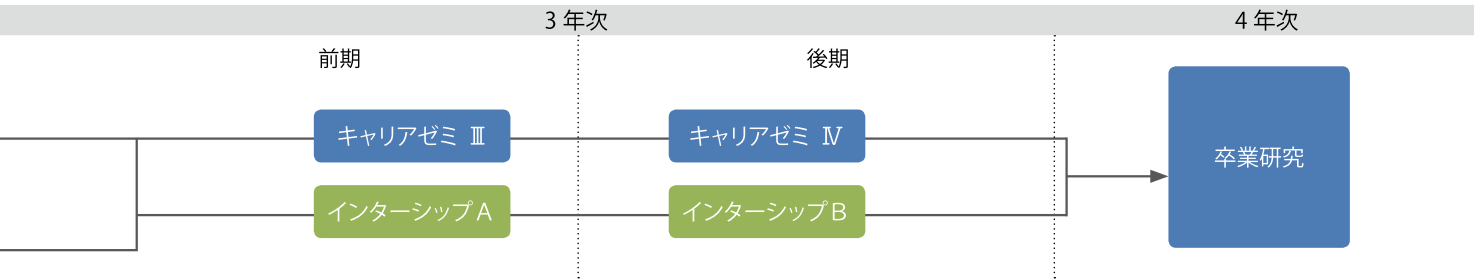
就職者の内訳
上場企業、大手企業への就職
2人に1人

学生一人あたりの求人倍率
(2017年度)
福井工業大学 **56.2倍/人**
※就職を希望する4年生497名に対する
年間求人数で算出
全国平均 **1.78倍/人**
※リクルートワークス研究所
「第34回ワークス大卒求人倍率調査」より

過去の就職実績 **98.3%** | **98.5%** | **99.3%**
2015年3月卒 | 2016年3月卒 | 2017年3月卒
福井工業大学の
就職支援満足度 **96.2%**
※2018年卒業生アンケート/
福井工業大学の就職支援を良いと
答えた卒業生。
回答505人中486人が良い・やや
良いと回答

就職サポート

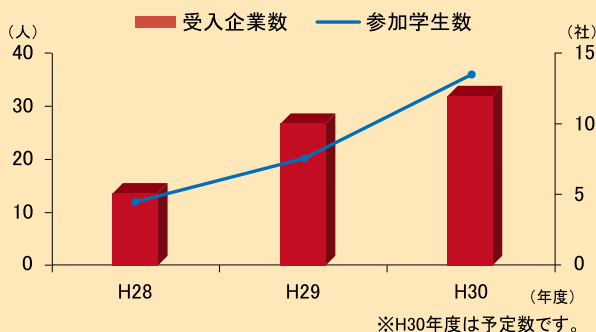
- インターンシップガイダンス
- 就職ガイダンス (全9回)
- 就職試験対策講座 (全6回)
- 「知って役立つ労働法」
- 進路希望調査及び個人指導 (学科別)
- キャリアアプローチ実施
- 業界・企業研究会 (全4回)
- 都市圏就職活動セミナー 就職EXPO
- 学内企業合同説明会
- 学内企業個別説明会
- 個別指導
- 個別指導
- 学内企業個別説明会
- 就職内定者フォローセミナー



インターンシップA・B
インターンシップとは、企業・団体における実務実習のことで、3年生を対象に実施します。実際に企業・団体で仕事を体験し、就職に対する意識を育むと同時に、自らの適性を見きわめ、進路を明確にする絶好の機会です。

キャリア教育の一環として、海外インターンシップを実施しています

海外に事業所を設けている県内外の優良企業の協力を得て、学生が海外事業所での仕事と生活を経験することで、グローバルに活躍できる人材の育成を目指しています。
3週間の海外インターンシップを経験した学生全員が、大きく成長して帰国しています。



01 教育研究上の目的

01-1 使命・目的

建学の精神及び基本理念に基づく本学の使命・目的は以下のよう
に要約される。

1. 国家・社会の形成者にふさわしい人格と教養を身に付け、人類社会に貢献する高い志をもつ人材の育成
2. 日本の歴史・文化を正しく理解し、自国を愛する健全な精神を身に付けた真の国際人の育成
3. 質実剛健な気風を養い、人格円満にして高い徳性を身に付けた社会人の育成
4. 多様かつ急速な科学技術の変化にも柔軟に対応できるように十分な工学基礎知識と専門知識を身に付けた技術者の育成
5. 創造的に物事を考え、自主的に課題を解決する能力を身に付けた実践的な技術者の育成

以上、本学の使命・目的は、建学の精神・基本理念に適い、社会で活躍できる人材に不可欠の素養を学生一人一人に身に付けさせることである。

01-2 教育方針

使命・目的を達成するための本学の教育方針は以下の通りである。

日本人としての誇りと自覚をもって、人間性の尊厳に根ざした豊かな教養を培い、自然と調和した生活を創り出せる高度の科学知識・工学技術を身につけて、自主的、創造的に活動し、国家社会の発展と人類の福祉に貢献する人材の育成に努める

01-3 教育目標

教育方針に従った課程ごとの具体的な教育目標は以下の通りである。

学士課程

1. 豊かな人間性と高度な専門知識・技術を身につけ、創造的なものごとを考え、自主的に課題を解決する能力を身につけた専門職業人の育成
2. 国家・社会の形成者にふさわしい教養と人から尊敬され愛される人間性を身につけ、社会に貢献する高い志をもつ人材の育成
3. 自国を愛する健全な精神を身につけ、異文化を理解する心をもった真の国際人の育成
4. 確かな英語力とコミュニケーション能力を身につけ、グローバル社会で活躍できる人材の育成

大学院博士前期課程

- ・ 広い視野に立って精深な学識を修め、専門分野における理論と応用の研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要な高度の能力を養うものとする。

大学院博士後期課程

- ・ 専攻分野について研究者として自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力と、その基礎となる豊かな学識を養うものとする。

01-4 教育研究上、人材養成上の目的

学部

学校法人金井学園(以下「本学園」という。)が設置する福井工業大学(以下「本学」という。)は、本学園建学の精神に基づいて、質実剛健な気風と、愛国心の涵養に努め、人格円満にして徳性の高い社会人を育成するとともに、教育基本法及び学校教育法の定め

るところに従い、高い教養と工学に関する高度な専門知識・技術を身に付けた人材を養成することを使命とし、教育研究活動を通して地域社会の発展に寄与するとともに、広く人類社会の福祉に貢献することを目的とする。

各学部・学科の教育研究上、人材養成上の目的は、次のとおりである。

| 学 部 | 教育研究上、人材養成上の目的 |
|-----------|--|
| 工 学 部 | 工学部は、高い教養と工学に関する高度の専門知識・技術を身に付け、ものづくり産業の発展に貢献できる人材を養成する。 |
| 環境情報学部 | 環境情報学部は、社会のあらゆる場合において用いられる情報、デザイン及び環境に関する教育研究を通じて、幅広い分野で活躍できる創造性豊かな人材を養成する。 |
| スポーツ健康科学部 | スポーツ、健康に関する基礎知識・基礎理論への総合的・学術的な理解を持ち、科学的な視点からスポーツ・健康産業界や地域スポーツ指導の発展に貢献できる人材を養成する。 |

| 学 科 | 教育研究上、人材養成上の目的 | |
|------------------|----------------|--|
| 工 学 部 | 電気電子工学科 | 電気電子工学の分野において、電気・エネルギー・電子材料・コンピュータ・計測技術・自動制御などの専門教育の実践並びにこれらに関する先端技術の研究の推進を通して、環境・エネルギー・情報通信システムにわたる高度な専門技術と幅広い教養を身に付け、世の中の変化に柔軟に対応し、グローバルに活躍できる電気電子工学分野の人材を養成する。 |
| | 機械工学科 | ものづくりの基礎となる専門知識と技術の教育・研究、及び自動車の構造や整備に関する専門教育を行い、福祉・医療用機器やロボットを含む各種産業・運輸用機械・設備の設計や製造など、ものづくりに必要な幅広い知識と技術をもち、自ら進んで最先端の課題に取り組み、解決していける豊かな人間力を有し、国際社会や地域社会で活躍できる人材を養成する。 |
| | 建築土木工学科 | 現代建築および伝統的木造建築に必要な建築技術・設計法、建築計画、構造、材料、環境設備などに関する教育・研究、および自然環境と共生し、人にやさしく自然災害に強い安全・安心で豊かな国土の創出および社会基盤の整備・維持管理に必要な専門的土木技術の教育・研究を行い、専門技術者として建設業界で活躍する人材を養成する。 |
| | 原子力技術応用工学科 | 原子炉、原子燃料サイクル、保全技術、放射線などについて、各人の個性、希望に合わせた特定分野の専門教育を行い、原子力技術・放射線技術を用いた安全で安心な社会を実現させるための研究を行う。また、福井県内外の研究機関や原子力技術での現場実習を豊富に取り入れるとともに、「専門職」として求められる放射線主任者、技術士補や非破壊検査技術者などの資格取得にも力を入れ、原子力・放射線分野に関する多くの知識を社会に伝えることの出来るコミュニケーション能力及び高い倫理観を持つ人材を養成する。 |
| 環 境 情 報 学 部 | 環境・食品科学科 | 化学・生物学の基礎から環境・食品の専門に至る体系化された教育とこれらに関する最先端研究を通して、氾濫する様々な情報に惑わされることなく、多角的な視点と深い洞察力で環境や食品に関連する重要課題の解決・改善に取り組むことができる幅広い科学技術の知識と応用力、豊かな創造性、揺るぎない倫理観を身に付けた人材を養成する。 |
| | 経営情報学科 | マネジメントに関する資源(ヒト、モノ、カネ、情報)を総合的にとらえ、企業活動や公共社会に関する基本的知識・技術を体系的・科学的に理解・習得し、また、情報通信技術に関する最新の知識・技術を備え、システム開発プロジェクトの一員として高度情報社会に貢献できる、高い倫理観を備えた経営情報分野の人材を養成する。 |
| | デザイン学科 | 住宅及びインテリアのデザインを軸とした環境デザイン、工業製品のデザインを軸としたプロダクトデザイン、グラフィック・映像・CG・WEBなどを軸とした情報デザインに関する専門教育の実践、工学と芸術の融合を目指す作品の制作や研究活動、デザインの発想を活用した商品企画や社会貢献を通して、美しく快適で持続可能な生活環境の創造に携わるデザイナーやデザインに関わる人材を養成する。 |
| ス ポー ツ 健 康 科 学 部 | スポーツ健康科学科 | スポーツ、健康に関する基礎知識・基礎理論への総合的・学術的な理解を持ち、科学的な視点からスポーツ・健康産業界や地域スポーツ指導の発展に貢献できる人材を養成する。 |

大学院

福井工業大学大学院（以下「大学院」という。）は、建学の精神と本学の教育理念に基づき、各専攻の専門分野における学術の理論と応用に関する教育と研究を行い、広い視野と高度の専門知識・技術及び研究能力を身に付け、人類社会の福祉に貢献するとともに、国際的に活躍できる高度技術者・研究者を育成する。

各専攻の教育研究上、人材養成上の目的は、次のとおりである。

| 専攻・課程 | | 教育研究上、人材養成上の目的 |
|------------------|-----------|--|
| 大学院 工学 研究科 | 応用理工学専攻 | <p>電気電子情報工学、宇宙情報科学、機械工学、環境生命化学、原子力技術応用工学の5コースを設置し、以下のような各コースの専門分野の教育並びに研究を行い、広い視野と高度な専門知識・技術、新しい問題提起とその解決能力を備えた創造性豊かな人材を養成する。各コースの専門分野は、以下の通りである。</p> <hr/> <p>電気電子情報工学コース：電力工学、電子材料・デバイス工学、物性工学、制御工学、コンピュータ情報工学 宇宙情報科学コース：宇宙環境科学、地球環境計測工学、衛星通信工学、情報処理工学 機械工学コース：材料工学、振動工学、流体工学、熱工学、機械システム工学 環境生命化学コース：応用化学、環境科学、材料科学、応用生物学、生命科学、生体工学 原子力技術応用工学コース：原子力工学、原子力発電工学、放射線応用工学</p> |
| | | <p>電気電子情報工学、宇宙情報科学、機械工学、環境生命化学、原子力技術応用工学の5コースにおける専門分野の教育並びに研究を行い、基幹あるいは先端理工学分野における目覚ましい科学・技術の発展に対応できる専門知識と応用能力、研究能力を備えた人材を養成する。</p> |
| | 社会システム学専攻 | <p>土木工学、建築学、デザイン学、経営情報学の4コースを設置し、以下のような各コースの専門分野の教育並びに研究を行い、広い視野と高度な専門知識・技術、新しい問題の提起とその解決能力を備えた創造性豊かな人材を養成する。各コースの専門分野は、以下の通りである。</p> <hr/> <p>土木工学コース：土木計画学、水工学、環境工学、地盤工学、構造工学 建築学コース：建築計画・意匠、建築環境・設備、伝統木造建築、建築構造工学 デザイン学コース：生活創造科学、生産・環境デザイン学、情報・伝統デザイン学 経営情報学コース：メディアデザイン、情報通信技術、情報通信技術の企業経営への応用</p> |
| | | <p>土木工学、建築学、デザイン学、経営情報学の4コースにおける専門分野の教育並びに研究を行い、建築や社会基盤の計画・調査・設計・施工・維持管理、デザインによる生活文化や生産・環境・情報の価値創造、プロジェクトマネジメント及び望ましい情報社会の構築に貢献できる専門知識と応用能力、研究能力を備えた人材を養成する。</p> |

02-1 教員数

職階別専任教員数 大学

平成30年5月1日現在(単位:人)

| 学部名 | 学科名 | 教授 | | 准教授 | | 講師 | | 助教 | | 計 | |
|-----------|------------|----|---|-----|---|----|---|----|---|----|---|
| | | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 |
| 工学部 | 電気電子工学科 | 8 | | 2 | | | | | | 10 | 0 |
| | 機械工学科 | 8 | | 2 | | | | | | 10 | 0 |
| | 建築土木工学科 | 8 | | 4 | | | | | | 12 | 0 |
| | 原子力技術応用工学科 | 8 | | | | | | | | 8 | 0 |
| 環境情報学部 | 環境・食品科学科 | 4 | 2 | 3 | | | | | | 7 | 2 |
| | 経営情報学科 | 6 | | 2 | 2 | 1 | | | | 9 | 2 |
| | デザイン学科 | 4 | 1 | | | 3 | | | | 7 | 1 |
| スポーツ健康科学部 | スポーツ健康科学科 | 8 | | 3 | | 2 | 1 | | | 13 | 1 |
| 基盤教育機構 | | 1 | 1 | 1 | | 4 | | 6 | 1 | 12 | 2 |
| 計 | | 55 | 4 | 17 | 2 | 10 | 1 | 6 | 1 | 88 | 8 |

職階別専任教員数 大学院工学研究科 博士前期課程

平成30年5月1日現在(単位:人)

| 専攻名 | 教授 | | 准教授 | | 講師 | | 計 | |
|-----------|----|---|-----|---|----|---|----|---|
| | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 |
| 応用理工学専攻 | 32 | 2 | 7 | | | | 39 | 2 |
| 社会システム学専攻 | 23 | 2 | 9 | 2 | 7 | 1 | 39 | 5 |
| 計 | 55 | 4 | 16 | 2 | 7 | 1 | 78 | 7 |

職階別専任教員数 大学院工学研究科 博士後期課程

平成30年5月1日現在(単位:人)

| 専攻名 | 教授 | | 准教授 | | 講師 | | 計 | |
|-----------|----|---|-----|---|----|---|----|---|
| | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 |
| 応用理工学専攻 | 26 | 2 | 5 | | | | 31 | 2 |
| 社会システム学専攻 | 18 | 2 | 7 | | 3 | | 28 | 2 |
| 計 | 44 | 4 | 12 | 0 | 3 | 0 | 59 | 4 |

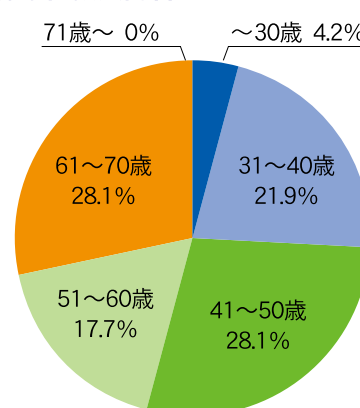
年齢別専任教員数

平成30年5月1日現在(単位:人)

| 年齢 | 人数 |
|--------|----|
| ～30歳 | 4 |
| 31～40歳 | 21 |
| 41～50歳 | 27 |
| 51～60歳 | 17 |
| 61～70歳 | 27 |
| 71歳～ | 0 |
| 計 | 96 |

年齢別専任教員割合

平成30年5月1日現在(単位:人)



02 教職員情報

専任教員数及び非常勤教員数

平成30年5月1日現在(単位:人)

| 学部名 | 学科名 | 専任教員数 | 非常勤教員数 | 計 |
|-----------|------------|-------|--------|------|
| 工学部 | 電気電子工学科 | 10 | 3 | 13 |
| | 機械工学科 | 10 | 4 | 14 |
| | 建築土木工学科 | 12 | 4 | 16 |
| | 原子力技術応用工学科 | 8 | 1 | 9 |
| 環境情報学部 | 環境・食品科学科 | 9 | 0 | 9 |
| | 経営情報学科 | 11 | 9 | 20 |
| | デザイン学科 | 8 | 14 | 22 |
| スポーツ健康科学部 | スポーツ健康科学科 | 14 | 12 | 26 |
| 基盤教育機構 | | 14 | 32 | 46 |
| 計 | | 96 | 79 | 175 |
| 割合 | | 54.9% | 45.1% | 100% |

専任教員1人当たりの学生数

平成30年5月1日現在(単位:人)

| 学部名 | 学科名 | 専任教員数 | 学生数 | 専任教員1人当り学生 |
|-----------|------------|-------|-------|------------|
| 工学部 | 電気電子工学科 | 10 | 362 | 36.2 |
| | 機械工学科 | 10 | 389 | 38.9 |
| | 建築土木工学科 | 12 | 306 | 25.5 |
| | 原子力技術応用工学科 | 8 | 91 | 11.4 |
| 環境情報学部 | 環境・食品科学科 | 9 | 189 | 21.0 |
| | 経営情報学科 | 11 | 428 | 38.9 |
| | デザイン学科 | 8 | 218 | 27.3 |
| スポーツ健康科学部 | スポーツ健康科学科 | 14 | 316 | 22.6 |
| 基盤教育機構 | | 14 | — | — |
| 計 | | 96 | 2,301 | 24.0 |

注1) 電気電子工学科には、電気電子情報工学科を含めて算出。

注2) 建築土木工学科には、建築生活環境学科を含めて算出。

注3) スポーツ健康科学科には、産業ビジネス学科を含めて算出。

02-2 職員数

大学事務局 職員数

平成30年5月1日現在(単位:人)

| 所属 | 男 | 女 | 計 |
|---------|----|----|----|
| 事務局長 | 1 | | 1 |
| 事務局次長 | 1 | | 1 |
| 庶務課 | 2 | 6 | 8 |
| I R・評価室 | 1 | | 1 |
| 学務課 | 7 | 12 | 19 |
| 入試広報課 | 9 | 4 | 13 |
| 就職支援課 | 2 | 6 | 8 |
| 社会連携推進課 | 6 | 2 | 8 |
| 国際交流課 | 2 | 2 | 4 |
| センター管理課 | 8 | | 8 |
| 情報メディア課 | 3 | 1 | 4 |
| 計 | 42 | 33 | 75 |

03-1 教育目標とアドミッション・ポリシー

本学は、建学の精神「悠久なる日本民族の歴史と伝統とに根ざした愛国心を培い、節義を重んずる人格の育成、科学技術の研鑽に努め、以て人類社会の福祉に貢献する」に基づいて、次のような人材の育成を目指しています。

1. 豊かな人間性と高度な専門知識・技術を身につけ、創造的にものごとを考え、自主的に課題を解決する能力を身につけた専門職業人
2. 国家・社会の形成者にふさわしい教養と人から尊敬され愛される人間性を身につけ、社会に貢献する高い志をもつ人材
3. 自国を愛する健全な精神を身につけ、異文化を理解する心をもった真の国際人

4. 確かな英語力とコミュニケーション能力を身につけ、グローバル社会で活躍できる人材

そのため、本学では次のような人を求めています

1. 自然と人間を愛し、本学の理念と教育目標に共感し、本学で学びたいという強い意志をもっている人
2. 人間性を大切にし、広い視野からものごとを考え、目標をもって意欲的に学ぶことのできる向学心の旺盛な人
3. 専門職業人として、豊かな学識とリーダーシップを身につけ、地域社会や国際社会に知的・技術的貢献をしようという志をもっている人

福井工業大学(以下、「本学」という。)、学校法人金井学園(以下、「本学園」という。))の「建学の精神」および本学の「教育方針」に則り、学部・学科のディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)に定めた学修目標と人材育成を達成できる潜在的な能力を有した学生を求めて、以下の通り、学科毎にアドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)を定めています。この方針にふさわ

しい人材を受け入れるために、本学ではAO入試、各種推薦入試、一般入試、センター試験利用入試の複数の選抜方式をとっています。これらの選抜によって多様な学生を受け入れ、本学の特色ある教育研究を通して、持続可能な社会の発展に主体的かつ能動的に貢献することのできる豊かな人間性と創造性および高い倫理観を兼ね備えた人材を育成します。

工 学 部

電気電子工学科

現代社会は、電気・電子・通信分野などの基幹技術によって支えられています。これらの分野では、環境を考えたエネルギー技術の開発に加え、製造現場や生活者を補助するロボットのように機器やシステムを制御するための情報処理技術の開発など今日的課題への対応も求められています。電気電子工学科では、電気・電子分野の基礎学力を十分に身に付けた上で、広い分野で活躍するために必要となる実践的な能力を養います。また、幅広い分野のニーズに応えるコースと、より深い専門能力と創造力の向上を志向するコースを設け、電気・電子分野に関連するプロジェクトを活用することで、実践的な技術者を育成します。

そのため、本学科では次のような人を求めています。

- (AP1) 本学科の修学に必要な基礎学力(特に数学、物理)と基本的な学習スキル(文章や図表を理解する、ノートやメモを取る、自ら調べる)を備えている。[知識・理解]
- (AP2) 電気や電子に関連して生じる現象や事象について、調べた情報や結果を基に自分なりの考えを持つことができる。[思考・判断]
- (AP3) 電気・電子・情報・通信工学に関心があり、将来その分野の技術者として国内外で活躍し、社会に貢献したいという意欲を持っている。[関心・意欲]
- (AP4) 電気・電子分野に関連するプロジェクトなどの課外活動にも主体的に取り組もうとする態度を有している。[態度]
- (AP5) 他者の考えを理解するとともに、自分の意見を相手にわかりやすく伝えることができる。[技能・表現]

機械工学科

機械工学は、我が国が得意とする「ものづくり」の基盤となる学問分野です。人々が安全で快適な生活を営む上で必要となる様々な製品には、機械分野の技術が深く関わっています。機械分野では、「ものづくり」に必要な幅広い専門知識と技術、自ら進んで課題に取り組み解決していく能力、社会に役立つ製品や技術を生み出す創造力、ならびに技術者として国際社会や地域社会で活躍できる責任感と倫理観を兼ね備えた人材が求められています。機械工学科では、機械工学の知識や技術を基盤に福祉・医療用機器やロボットなどを含む各種産業・運輸用機械・設備など、幅広い分野で活躍できる実践的な技術者を育成します。また、機械工学を基礎としながら、自動車整備士の国家資格取得を目指すとともに、自動車関連の分野で活躍できる技術者も育成します。

そのため、本学科では次のような人を求めています。

- (AP1) 本学科の修学に必要な基礎学力(特に数学、物理)と基本的な学習スキル(文章や図表を理解する、ノートやメモを取る、自ら調べる)を備えている。[知識・理解]
- (AP2) 機械や装置のメカニズムに興味があり、その動作から機械や装置の仕組みについて自分なりの考えを持つことができる。[思考・判断]
- (AP3) 「ものづくり」に関心があり、新しいものを自ら作り出したいという意欲と機械技術者として国内外で活躍したいという希望を持っている。[関心・意欲]
- (AP4) チャレンジ精神を有し、自ら課題を見つけ、その解決のために粘り強く主体的に取り組もうとする態度を有している。[態度]
- (AP5) 他者の考えを理解するとともに、自分の意見を相手にわかりやすく伝えることができる。[技能・表現]

建築土木工学科

建築および土木は、人々の安全・安心・快適な生活環境を支えるために欠かすことのできない技術分野です。建築土木工学科では、建築系と土木系を専門とする2つのコースを設けています。建築系では、設計法、建築計画、構造、材料、環境設備などの専門技術を修得し、将来、建築士として魅力的な居住空間、都市空間を創出できる人材を育成します。土木系では、安全・安心で豊かな都市環境、国土の創出および社会基盤の整備・維持管理に必要な専門的土木技術を修得し、自然環境と共生しながら持続可能な社会の構築に貢献できる人材を育成します。

そのため、本学科では次のような人を求めています。

- (AP1) 本学科の修学に必要な基礎学力(特に数学的思考力)と基本的な学習スキル(文章や図表を理解する、ノートやメモを取る、自ら調べる)を備えている。〔知識・理解〕
- (AP2) 建築・土木分野の知識・技術に興味があり、これまで造られてきた建築物や土木構造物に対して自分なりの考えを持っている。〔思考・判断〕
- (AP3) 建築・土木分野の「ものづくり」に関心があり、将来その分野の技術者として、地域社会および国内外で活躍したいという意欲を持っている。〔関心・意欲〕
- (AP4) 建築や土木が関連するプロジェクトなどの課外活動にも積極的に参加し、課題の発見と解決に向けて粘り強く主体的に取り組もうとする態度を有している。〔態度〕
- (AP5) 他者の考えを理解するとともに、自分の意見を相手にわかりやすく伝えることができる。〔技能・表現〕

原子力技術応用工学科

原子力は、電気工学や機械工学など多くの工学が融合した「総合工学」と言われています。その応用は様々な分野に広がり、ロボット、制振・免震、水処理をはじめとする多くの技術革新につながっています。原子力技術応用工学科では、高い倫理観と原子力の専門知識を身に付け、次世代原子力技術の発展に貢献できる人材を育成します。また、医療器具の滅菌やがんの治療、材料の非破壊検査、ゴムやプラスチックの製造など、医療・工業・農業分野で幅広く利用されている放射線の専門知識および技術を修得し、国内外で活躍できる人材を育成します。

そのため、本学科では次のような人を求めています。

- (AP1) 本学科の修学に必要な基礎学力(特に数学、物理)と基本的な学習スキル(文章や図表を理解する、ノートやメモを取る、自ら調べる)を備えている。〔知識・理解〕
- (AP2) 原子力や放射線の応用について、調べた情報や結果を基に自分なりの考えを持つことができる。〔思考・判断〕
- (AP3) 原子力や放射線に関心があり、将来その分野の技術者として国内外で活躍し、社会に貢献したいという意欲を持っている。〔関心・意欲〕
- (AP4) 原子力技術や放射線利用の発展に向け、現時点で自らができることに粘り強く主体的に取り組もうとする態度を有している。〔態度〕
- (AP5) 他者の考えを理解するとともに、自分の意見を相手にわかりやすく伝えることができる。〔技能・表現〕

環境情報学部

環境・食品科学科

地球規模での環境問題や異常気象による食糧危機が懸念されており、将来にわたって誰もが安心して暮らせる社会の構築が求められています。環境・食品科学科では、安全・安心で持続可能な社会の構築に貢献するために、化学・生物学の基礎教育、および環境・食品の専門教育とそれらの最先端研究を行っています。それらを通して科学技術の幅広い知識と確かな応用力を身に付け、環境や食品の重要課題の解決・改善に取り組むことのできる人材を育成します。

そのため、本学科では次のような人を求めています。

- (AP1) 本学科の修学に必要な基礎学力(化学あるいは生物)と基本的な学習スキル(文章や図表を理解する、ノートやメモを取る、自ら調べる)を備えている。〔知識・理解〕
- (AP2) 環境汚染や食糧危機がもたらす影響について情報を整理し、自分なりの考えを持つことができる。〔思考・判断〕
- (AP3) 環境や食品の課題に関心を持ち、将来その解決・改善に取り組みたいという意欲を持っている。〔関心・意欲〕
- (AP4) 本学科が関係するプロジェクトやボランティアなどの課外活動にも主体的に取り組もうとする態度を有している。〔態度〕
- (AP5) 他者の考えを理解するとともに、自分の意見を相手にわかりやすく伝えることができる。〔技能・表現〕

経営情報学科

今日の高度情報社会が抱える諸問題は複雑で多岐にわたるため、単一の視点からだけでは問題を解決することは困難です。そのため、ネットワークに溢れる膨大な情報の中から、総合的な視点で諸問題における様々な関連性を見つけ出し、得られた有益な情報や結果を企業や社会にフィードバックできる人材が求められています。経営情報学科では、企業経営や経済に関する知識だけでなく、グローバルな環境問題や社会サービス、情報通信技術(ICT)に至る広範な知識を身に付け、それらの知識を活用して今日の社会問題の本質を探り、解決方法を提言できる人材を育成します。

そのため、本学科では次のような人を求めています。

- (AP1) 企業経営、経済、情報通信に対する知的好奇心と本学科の修学に必要な基礎学力を備えている。〔知識・理解〕
- (AP2) 高度情報社会におけるプラスとマイナスの両面について情報を整理し、自分なりの考えを持つことができる。〔思考・判断〕
- (AP3) 社会から歓迎される企業人、政策担当者、情報技術者として、国内外を問わず社会に幅広く貢献したいという意欲と向上心を持っている。〔関心・意欲〕
- (AP4) 本学科が関係するプロジェクトやボランティアなどの課外活動にも主体的に取り組もうとする態度を有している。〔態度〕
- (AP5) 他者の考えを理解するとともに、自分の意見を相手にわかりやすく伝えることができる。〔技能・表現〕

デザイン学科

21世紀の生活環境を考える上で、デザインが果たす役割はますます重要になっています。デザインとは単に美しい作品を生み出すだけではなく、生活のあるべき姿を構想し、それを効果的な方法で表現することです。デザイン学科では、「都市・地域の環境形成やコミュニティのあり方」「住宅・各種施設・インテリアなどの生活空間」「家具・生活用品など身近な商品の意匠とブランディング」「雑誌・広告・ロゴマーク・ポスター・Web・映像などの目に見える情報メディア」等のデザインに関する学びを通して、美しく快適な生活環境を創造するデザイナーやデザインに関わる専門家を育成します。

そのため、本学科では次のような人を求めています。

- (AP1) デザインに対する知的好奇心と本学科の学びに必要な基礎学力(分野・教科を問わない)を備えている。[知識・理解]
- (AP2) 「デザインの力」について、自らの手足と頭を使って調べた情報や結果を基に自分なりの考えを持つことができる。[思考・判断]
- (AP3) 人と社会の未来に関心があり、新しい価値観の提案や豊かで美しく快適な生活環境の創造に意欲を持っている。[関心・意欲]
- (AP4) 他者の意見に耳を傾け、幅広い価値観を理解することができ、自らの考えを他者に伝えるコミュニケーションを楽しむことができる。[態度]
- (AP5) 自らの感動をことば、絵、身体で表現したいという意気込みやみんなと一緒に何かを生み出したいという思いを持っている。[技能・表現]

スポーツ健康科学部

スポーツ健康科学科

アスリートのみならず、高齢化社会への対応、健康づくり志向、地域振興など、現代社会ではスポーツへの関心が高まっています。スポーツ健康科学は、科学的視点からスポーツと健康を捉え、総合的・学際的な研究と教育を行う学問分野であり、工学的な知識や視点、情報処理技術など総合力も必要とされています。スポーツ健康科学科では、スポーツ健康科学の理論・技術を修得し、生涯にわたって多様な形でスポーツ・健康産業や関連組織に貢献できる人材を育成します。また、健康運動実践指導者や競技スポーツ指導者など、地域の運動・スポーツ指導の中心的存在となり、ライフステージや対象ごとの目標に応じた健康づくりに寄与する人材を育成します。

そのため、本学科では次のような人を求めています。

- (AP1) 本学科の修学に必要な基礎学力と基本的な学習スキル(文章や図表を理解する、ノートやメモを取る、自ら調べる)を備えている。[知識・理解]
- (AP2) スポーツが人の心身の健康に与える効果について、調べた情報や結果を基に自分なりの考えを持つことができる。[思考・判断]
- (AP3) スポーツ健康科学の理論・技術を身に付けた指導者・スタッフとして、スポーツや健康関連の分野で貢献したいという意欲を持っている。[関心・意欲]
- (AP4) スポーツあるいは健康関連のプロジェクトやボランティアなどの課外活動にも主体的に取り組もうとする態度を有している。[態度]
- (AP5) 他者の考えを理解するとともに、自分の意見を相手にわかりやすく伝えることができる。[技能・表現]

大学院工学研究科

福井工業大学(以下、「本学」という。)大学院工学研究科(以下、「工学研究科」という。)は、応用理工学専攻と社会システム学専攻の2専攻で構成され、それぞれの専攻に博士前期課程(標準修業年限2年)と博士後期課程(同3年)からなる博士課程が置かれている。各専攻には複数のコースが設けられ、博士前期課程では主として高度専門職技術者の養成、博士後期課程では主として研究者の養成に重点を置いている。工学研究科では、学校法人金井学園(以下、「本学園」という。))の「建学の精神」および本学の「教育方針」に則り、専攻・課程のディプロマ・ポリシー(修了認

定・学位授与の方針)に定めた学修目標と人材養成を達成できる潜在的な能力を有した学生を求めて、以下の通り、コース毎にアドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)を定めている。工学研究科では、推薦入試、一般入試、社会人入試など複数の方式の選抜を実施してアドミッション・ポリシーにふさわしい多様な人材を受け入れる。工学研究科の特色ある教育研究を通して、21世紀の知識基盤社会において国内外で活躍し、人類社会の福祉と発展に貢献することのできる人材を育成する。

【応用理工学専攻】

電気電子情報工学コース

電気電子情報工学コースでは、電力工学、電子材料・デバイス工学、物性工学、制御工学、コンピュータ情報工学の各分野の教育と研究を行い、エネルギー、半導体、デバイス、情報技術など広い領域で革新を続ける電気電子情報工学に関して国内外で活躍

することのできる豊かな学識と高い倫理観および社会の要請に対応可能な創造力を兼ね備えた高度専門技術者・研究者を育成する。

そのため、本コースでは次のような人を求めている。

《博士前期課程》

1. 電気電子情報工学コースの教育研究内容に興味をもって積極的に勉学・研究に励むことのできる人
2. 電気電子情報工学分野における課題の発見と解決に必要な基礎知識および技術を備えている人
3. 高度な専門性が求められる職業を担うための能力と倫理観を身につけ、地域社会あるいは国際社会で活躍したいという意欲をもっている人

《博士後期課程》

1. 電気電子情報工学コースの教育研究内容に高い関心をもち、主体的に勉学・研究に取り組むことのできる人
2. 電気電子情報工学分野の課題を自ら発見し、その解決に向けてこれまでに修得した知識と技術を応用できる能力を備えている人
3. 電気電子情報工学分野の研究者・技術者としての責任を自覚し、広い視野を備えた指導的な立場で国際的に活躍したいという意欲をもっている人

宇宙情報科学コース

宇宙情報科学コースでは、宇宙環境科学、地球環境計測工学、衛星通信工学、情報処理工学の各分野の教育と研究を行い、修得した宇宙空間の計測技術を地球環境の保全および各種産業の発展のためにグローバルな視点で利活用できる豊かな学識と

高い倫理観および社会の要請に対応可能な創造力を兼ね備えた高度専門技術者・研究者を育成する。

そのため、本コースでは次のような人を求めている。

《博士前期課程》

1. 宇宙情報科学コースの教育研究内容に興味をもって積極的に勉学・研究に励むことのできる人
2. 宇宙情報科学分野における課題の発見と解決に必要な基礎知識・技術を備えている人
3. 高度な専門性が求められる職業を担うための能力と倫理観を身につけ、地域社会あるいは国際社会で活躍したいという意欲をもっている人

《博士後期課程》

1. 宇宙情報科学コースの教育研究内容に高い関心をもち、主体的に勉学・研究に取り組むことのできる人
2. 宇宙情報科学分野の課題を自ら発見し、その解決に向けてこれまでに修得した知識と技術を応用できる能力を備えている人
3. 宇宙情報科学分野の研究者・技術者としての責任を自覚し、広い視野を備えた指導的な立場で国際的に活躍したいという意欲をもっている人

機械工学コース

機械工学コースでは、材料工学、振動工学、流体工学、熱工学、機械システム工学の各分野の教育と研究を行い、我が国が得意とする「ものづくり」をはじめ、あらゆる産業に関わりをもつ機械工学に関して国内外で活躍することのできる豊かな学識と高い

倫理観および社会の要請に対応可能な創造力を兼ね備えた高度専門技術者・研究者を育成する。

そのため、本コースでは次のような人を求めている。

《博士前期課程》

1. 機械工学コースの教育研究内容に興味をもって積極的に勉学・研究に励むことのできる人
2. 機械工学分野における課題の発見と解決に必要な基礎知識・技術を備えている人
3. 将来、高度な専門性と倫理観を必要とされる職業を担い、地域社会あるいは国際社会で活躍したいという意欲をもっている人

《博士後期課程》

1. 機械工学コースの教育研究内容に高い関心をもち、主体的に勉学・研究に取り組むことのできる人
2. 機械工学分野の課題を自ら発見し、その解決に向けてこれまでに修得した知識と技術を応用できる能力を備えている人
3. 機械工学分野の技術者・研究者としての責任を自覚し、広い視野を備えた指導的な立場で国際的に活躍したいという意欲をもっている人

環境生命化学コース

環境生命化学コースでは、応用化学、環境科学、材料科学、応用生物学、生命科学、生体工学の各分野の教育と研究を行い、資源・エネルギー・地球環境・食料問題など人類が直面している重要課題の解決や持続可能な循環型社会の構築に向けて、グロー

バルな視点で貢献できる豊かな学識と高い倫理観および社会の要請に対応可能な創造力を兼ね備えた高度専門技術者・研究者を育成する。

そのため、本コースでは次のような人を求めている。

《博士前期課程》

1. 環境生命化学コースの教育研究内容に興味をもって積極的に勉学・研究に励むことのできる人
2. 環境生命化学分野における課題の発見と解決に必要な基礎知識・技術を備えている人
3. 将来、高度な専門性と倫理観を必要とされる職業を担い、地域社会あるいは国際社会で活躍したいという意欲をもっている人

《博士後期課程》

1. 環境生命化学コースの教育研究内容に高い関心をもち、主体的に勉学・研究に取り組むことのできる人
2. 環境生命化学分野の課題を自ら発見し、その解決に向けてこれまでに修得した知識と技術を応用できる能力を備えている人
3. 環境生命化学分野の技術者・研究者としての責任を自覚し、広い視野を備えた指導的な立場で国際的に活躍したいという意欲をもっている人

原子力技術応用工学コース

原子力技術応用工学コースでは、原子力工学、原子力発電工学、放射線応用工学の各分野の教育と研究を行い、修得した原子力発電技術あるいは放射線応用技術をエネルギーの安定供給や各種産業の発展のためにグローバルな視点で活用できる

豊かな学識と高い倫理観および社会の要請に対応可能な創造力を兼ね備えた高度専門技術者・研究者を育成する。

そのため、本コースでは次のような人を求めている。

《博士前期課程》

1. 原子力技術応用工学コースの教育研究内容に興味をもって積極的に勉学・研究に励むことのできる人
2. 原子力技術応用工学分野における課題の発見と解決に必要な基礎知識・技術を備えている人
3. 将来、高度な専門性と倫理観を必要とされる職業を担い、地域社会あるいは国際社会で活躍したいという意欲をもっている人

《博士後期課程》

1. 原子力技術応用工学コースの教育研究内容に高い関心をもち、主体的に勉学・研究に取り組むことのできる人
2. 原子力技術応用工学分野の課題を自ら発見し、その解決に向けてこれまでに修得した知識と技術を応用できる能力を備えている人
3. 原子力技術応用工学分野の技術者・研究者としての責任を自覚し、広い視野を備えた指導的な立場で国際的に活躍したいという意欲をもっている人

【社会システム学専攻】

土木工学コース

土木工学コースでは、土木計画学、水工学、環境工学、地盤工学、構造工学の各分野の教育と研究を行い、市民生活の安全安心を根底から支える社会のシステムおよび施設の計画・設計・構築・維持・管理に関して国内外で活躍することのできる豊かな学

識と高い倫理観および社会の要請に対応可能な創造力を兼ね備えた高度専門技術者・研究者を育成する。

そのため、本コースでは次のような人を求めている。

《博士前期課程》

1. 土木工学コースの教育研究内容に興味をもって積極的に勉学・研究に励むことのできる人
2. 土木工学分野における課題の発見と解決に必要な基礎知識および技術を備えている人
3. 高度な専門性が求められる職業を担うための能力と倫理観を身につけ、地域社会あるいは国際社会で活躍したいという意欲をもっている人

《博士後期課程》

1. 土木工学コースの教育研究内容に高い関心をもち、主体的に勉学・研究に取り組むことのできる人
2. 土木工学分野の課題を自ら発見し、その解決に向けてこれまでに修得した知識と技術を応用できる能力を備えている人
3. 土木工学の研究者・技術者としての責任を自覚し、広い視野を備えた指導的な立場で国際的に活躍したいという意欲をもっている人

建築学コース

建築学コースでは、建築計画・意匠、建築設計、建築環境・設備、伝統木造建築、建築構造工学の各分野の教育と研究を行い、建築と都市・地域社会の調和を図り、快適な都市・居住空間の実現に向けて国内外で貢献することのできる豊かな学識と高い倫

理観および社会の要請に対応可能な創造力を兼ね備えた高度専門技術者・研究者を育成する。

そのため、本コースでは次のような人を求めている。

《博士前期課程》

1. 建築学コースの教育研究内容に興味をもって積極的に勉学・研究に励むことのできる人
2. 建築学分野における課題の発見と解決に必要な基礎知識および技術を備えている人
3. 高度な専門性が求められる職業を担うための能力と倫理観を身につけ、地域社会あるいは国際社会で活躍したいという意欲をもっている人

《博士後期課程》

1. 建築学コースの教育研究内容に高い関心をもち、主体的に勉学・研究に取り組むことのできる人
2. 建築学分野の課題を自ら発見し、その解決に向けてこれまでに修得した知識と技術を応用できる能力を備えている人
3. 建築学の研究者・技術者としての責任を自覚し、広い視野を備えた指導的な立場で国際的に活躍したいという意欲をもっている人

デザイン学コース

デザイン学コースでは、生活創造科学、生産・環境デザイン学、情報・伝達デザイン学の各分野の実践的な教育および研究を行い、生活、技術、文化、芸術などに対する理解の上に、豊かな生活

環境を生み出すための魅力的な提案とその実現に貢献できる高度な専門性を備えた人材を育成する。

そのため、本コースでは次のような人を求めている。

《博士前期課程》

1. デザイン学コースの教育研究内容に興味をもって積極的に勉学・研究に励むことのできる人
2. デザイン学分野における課題の発見と解決に必要な基礎知識・技術を備えている人
3. 高度な専門性が求められる職業を担うための能力と倫理観を身につけ、地域社会あるいは国際社会で活躍したいという意欲をもっている人

《博士後期課程》

1. デザイン学コースの教育研究内容に高い関心を持ち、主体的に勉学・研究に取り組むことのできる人
2. デザイン学分野の課題を自ら発見し、その解決に向けてこれまでに修得した知識と技術を応用できる能力を備えている人
3. デザイン学分野の高度な専門性を身につけたスペシャリストとしての責任を自覚し、広い視野を備えた指導的な立場で国際的に活躍したいという意欲をもっている人

経営情報学コース

経営情報学コースでは、経営学、経済学、情報科学の各分野の教育と研究を行い、今日の高度情報社会においてグローバルな視点で活躍することのできる豊かな学識と高い倫理観および社

会の要請に対応可能な創造力を兼ね備えた高度専門技術者・研究者を育成する。

そのため、本コースでは次のような人を求めている。

《博士前期課程》

1. 経営情報学コースの教育研究内容に興味をもって積極的に勉学・研究に励むことのできる人
2. 経営情報学分野における課題の発見と解決に必要な基礎知識・技術を備えている人
3. 高度な専門性が求められる職業を担うための能力と倫理観を身につけ、地域社会あるいは国際社会で活躍したいという意欲をもっている人

《博士後期課程》

1. 経営情報学コースの教育研究内容に高い関心を持ち、主体的に勉学・研究に取り組むことのできる人
2. 経営情報学分野の課題を自ら発見し、その解決に向けてこれまでに修得した知識と技術を応用できる能力を備えている人
3. 経営情報学分野の研究者・技術者としての責任を自覚し、広い視野を備えた指導的な立場で国際的に活躍したいという意欲をもっている人

03-2 入学者

入学者数は次のとおりです。

学部

(単位:人)

| 学部名 | 学科名 | H30 | | H29 | | H28 | | H27 | |
|-----------|------------|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|
| | | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 |
| 工学部 | 電気電子工学科 | 95 | 0 | 97 | 2 | 84 | 3 | 80 | 2 |
| | 機械工学科 | 99 | 0 | 89 | 3 | 94 | 4 | 103 | 0 |
| | 建築土木工学科 | 73 | 6 | 72 | 8 | 67 | 12 | 76 | 7 |
| | 原子力技術応用工学科 | 20 | 3 | 17 | 1 | 28 | 3 | 16 | 1 |
| 環境情報学部 | 環境・食品科学科 | 25 | 10 | 39 | 12 | 45 | 7 | 46 | 17 |
| | 経営情報学科 | 97 | 10 | 100 | 8 | 106 | 8 | 96 | 7 |
| | デザイン学科 | 31 | 25 | 49 | 12 | 39 | 21 | 23 | 20 |
| スポーツ健康科学部 | スポーツ健康科学科 | 78 | 7 | 67 | 11 | 75 | 11 | 70 | 8 |
| 計 | | 518 | 61 | 530 | 57 | 538 | 69 | 510 | 62 |
| | | 579 | | 587 | | 607 | | 572 | |

大学院工学研究科

(単位:人)

| 専攻名 | 専攻名 | H30 | | H29 | | H28 | | H27 | |
|--------|-----------|-----|---|-----|---|-----|---|-----|---|
| | | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 |
| 博士前期課程 | 応用理工学専攻 | 10 | 1 | 14 | 1 | 10 | 2 | 9 | 0 |
| | 社会システム学専攻 | 6 | 2 | 9 | 1 | 7 | 0 | 2 | 3 |
| | 計 | 16 | 3 | 23 | 2 | 17 | 2 | 11 | 3 |
| 博士後期課程 | 応用理工学専攻 | 3 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 社会システム学専攻 | 4 | 0 | 0 | 2 | 4 | 0 | 0 | 0 |
| | 計 | 7 | 1 | 0 | 2 | 4 | 0 | 0 | 0 |

※秋入学者を含む

03-3 収容定員・在学者数・除退者数

収容定員数は次のとおりです。

学部

平成30年5月1日現在(単位:人)

| 学部名 | 学科名 | 収容定員 | | | | 計 |
|-----------|------------|------|-----|-----|-----|-------|
| | | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | |
| 工学部 | 電気電子工学科 | 80 | 80 | 80 | 80 | 1,000 |
| | 機械工学科 | 80 | 80 | 80 | 80 | |
| | 建築土木工学科 | 60 | 60 | 60 | 60 | |
| | 原子力技術応用工学科 | 30 | 30 | 30 | 30 | |
| 環境情報学部 | 環境・食品科学科 | 50 | 50 | 50 | 50 | 720 |
| | 経営情報学科 | 80 | 80 | 80 | 80 | |
| | デザイン学科 | 50 | 50 | 50 | 50 | |
| スポーツ健康科学部 | スポーツ健康科学科 | 70 | 70 | 70 | 70 | 280 |
| 計 | | 500 | 500 | 500 | 500 | 2,000 |

大学院工学研究科

平成30年5月1日現在(単位:人)

| 専攻名 | 専攻名 | 収容定員 | | | 計 |
|--------|-----------|------|----|----|----|
| | | 1年 | 2年 | 3年 | |
| 博士前期課程 | 応用理工学専攻 | 17 | 17 | | 34 |
| | 社会システム学専攻 | 8 | 8 | | 16 |
| | 計 | 25 | 25 | | 50 |
| 博士後期課程 | 応用理工学専攻 | 4 | 4 | 4 | 12 |
| | 社会システム学専攻 | 2 | 2 | 2 | 6 |
| | 計 | 6 | 6 | 6 | 18 |

03 入学者・在学者・卒業者の状況

在学者数は次のとおりです。

学部

平成30年5月1日現在(単位:人)

| 学部名 | 学科名 | 在学者数 | | | | | | | | 計 |
|-----------|------------|------|----|-----|----|-----|----|-----|----|-------|
| | | 1年 | | 2年 | | 3年 | | 4年 | | |
| | | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | |
| 工学部 | 電気電子工学科 | 95 | 0 | 92 | 2 | 81 | 3 | 76 | 2 | 1,169 |
| | 電気電子情報工学科 | | | | | | | 11 | 0 | |
| | 機械工学科 | 100 | 0 | 85 | 3 | 90 | 4 | 107 | 0 | |
| | 建築土木工学科 | 73 | 6 | 66 | 8 | 63 | 12 | 69 | 7 | |
| | 建築生活環境学科 | | | | | | | 2 | 0 | |
| | 原子力技術応用工学科 | 20 | 3 | 17 | 1 | 28 | 3 | 18 | 1 | |
| | 経営情報学科 | | | | | | | 10 | 0 | |
| | デザイン学科 | | | | | | | 8 | 1 | |
| 環境情報学部 | 産業ビジネス学科 | | | | | | | 2 | 0 | 816 |
| | 環境・食品科学科 | 25 | 10 | 38 | 12 | 41 | 6 | 41 | 16 | |
| | 経営情報学科 | 97 | 10 | 98 | 8 | 100 | 8 | 90 | 7 | |
| スポーツ健康科学部 | デザイン学科 | 31 | 25 | 48 | 12 | 38 | 18 | 21 | 16 | 316 |
| | スポーツ健康科学科 | 78 | 7 | 65 | 9 | 71 | 10 | 69 | 7 | |
| 計 | | 519 | 61 | 509 | 55 | 512 | 64 | 524 | 57 | 2,301 |
| | | 580 | | 564 | | 576 | | 581 | | |

大学院工学研究科

平成30年5月1日現在(単位:人)

| 専攻名 | | 在学者数 | | | | | | 計 |
|--------|-----------|------|---|----|---|----|---|----|
| | | 1年 | | 2年 | | 3年 | | |
| | | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | |
| 博士前期課程 | 応用理工学専攻 | 10 | 1 | 14 | 0 | | | 25 |
| | 社会システム学専攻 | 6 | 2 | 8 | 1 | | | 17 |
| 計 | | 16 | 3 | 22 | 1 | | | 42 |
| | | 19 | | 23 | | | | |
| 博士後期課程 | 応用理工学専攻 | 3 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 |
| | 社会システム学専攻 | 4 | 0 | 0 | 2 | 3 | 0 | 9 |
| 計 | | 7 | 1 | 0 | 2 | 3 | 0 | 13 |
| | | 8 | | 2 | | 3 | | |

社会人学生数

各年度5月1日現在(単位:人)

| 年度 | H30 | H29 | H28 | H27 |
|----------|-----|-----|-----|-----|
| 工学部 | 3 | 2 | 3 | 2 |
| 大学院工学研究科 | 12 | 6 | 5 | 1 |
| 計 | 15 | 8 | 8 | 3 |

※科目等履修生・研究生を含む

除退学者数は次のとおりです。

学部

(単位:人)

| 年度 | H29 | H28 | H27 | H26 |
|-----|-----|-----|-----|-----|
| 退学者 | 46 | 54 | 58 | 70 |
| 除籍者 | 13 | 9 | 14 | 15 |
| 計 | 59 | 63 | 72 | 85 |

大学院工学研究科

(単位:人)

| 年度 | H29 | H28 | H27 | H26 |
|-----|-----|-----|-----|-----|
| 退学者 | 3 | 0 | 2 | 2 |
| 除籍者 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 計 | 3 | 0 | 2 | 2 |

※満期退学者を除く

03-4 卒業

卒業生・修了者数は次のとおりです。

学部

(単位:人)

| 学部名 | 学科名 | 卒業生数 | | | |
|-----|------------|------|-----|-----|-----|
| | | H29 | H28 | H27 | H26 |
| 工学部 | 電気電子情報工学科 | 97 | 70 | 60 | 42 |
| | 機械工学科 | 106 | 98 | 67 | 78 |
| | 建築学科 | — | — | — | 31 |
| | 建築生活環境学科 | 74 | 63 | 41 | — |
| | 土木環境工学科 | — | 1 | 1 | 12 |
| | 環境生命化学科 | 62 | 53 | 46 | 45 |
| | デザイン学科 | 34 | 47 | 38 | 40 |
| | 経営情報学科 | 79 | 68 | 57 | 65 |
| | 産業ビジネス学科 | 65 | 66 | 67 | 60 |
| | 原子力技術応用工学科 | 17 | 14 | 11 | 34 |
| 計 | 534 | 480 | 388 | 407 | |

※前期末卒業を含む

大学院工学研究科

(単位:人)

| 専攻名 | | 修了者数 | | |
|--------|-----------|------|-----|-----|
| | | H29 | H28 | H27 |
| 博士前期課程 | 応用理工学専攻 | 11 | 10 | 7 |
| | 社会システム学専攻 | 6 | 5 | 7 |
| | 計 | 17 | 15 | 14 |
| 博士後期課程 | 応用理工学専攻 | 2 | 0 | 0 |
| | 社会システム学専攻 | 1 | 0 | 0 |
| | 計 | 3 | 0 | 0 |

※前期末卒業を含む

学位授与数

| 学位名 | H29年度授与数 | 累計 |
|------------|----------|--------|
| 学士(工学) | 534 | 27,248 |
| 修士(工学) | 17 | 705 |
| 博士(工学)課程博士 | 3 | 17 |
| 博士(工学)論文博士 | 0 | 24 |

03 入学者・在学者・卒業者の状況

03-5 進学及び就職

就職実績

高い就職率を誇るFUT。専門分野の知識を身につけ、豊かな教養と倫理観をもつ技術者として、新たな第一歩を踏み出しています。

就職・進学状況

(平成30年3月 卒業・修了者)(単位:人)

| | 工学部 | 大学院工学研究科 | 合計 |
|--------|--------------|---------------|--------------|
| 卒業生数 | 534 | 19 | 553 |
| 就職希望者数 | 501 | 16 | 517 |
| 就職者数 | 499 | 16 | 515 |
| 進学者数 | 25 | 3 | 28 |
| 就職率 | 99.6% | 100.0% | 99.6% |

※就職率=就職希望者数×100

地域別就職状況

(単位:人)

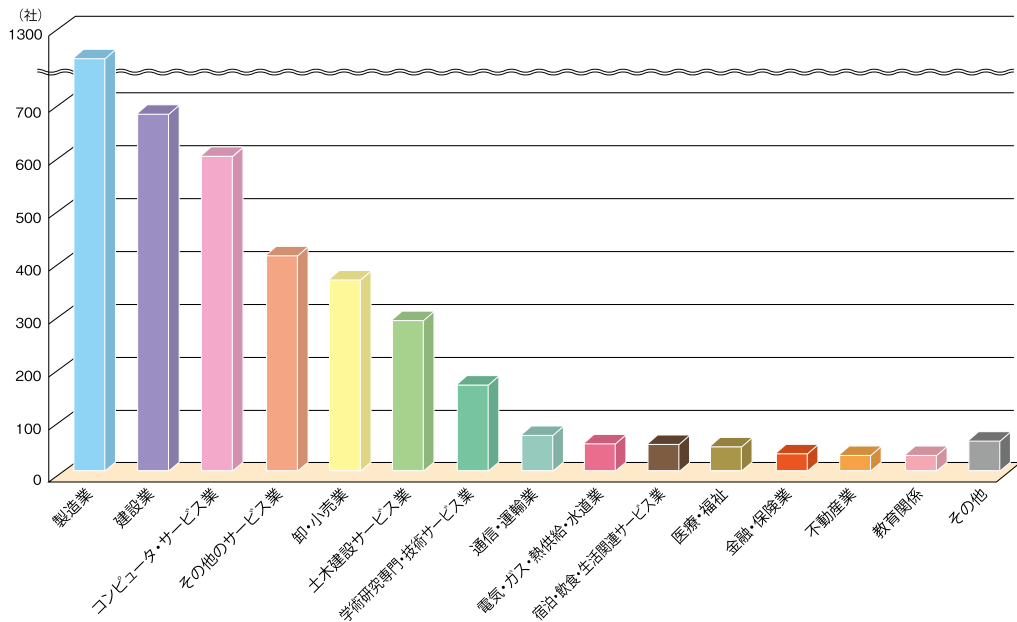
| | |
|---------|-----|
| 北海道・東北 | 1 |
| 関東 | 102 |
| 北信越 | 285 |
| 中部 | 37 |
| 近畿 | 65 |
| 中国・四国 | 7 |
| 九州・沖縄 | 2 |
| その他(海外) | 0 |
| 計 | 499 |

地域別就職割合

(単位:%)



業種別求人状況



求人企業件数 4,148

(単位:社)

| | | | | | |
|--------------|-------|-----------------|-----|--------|----|
| 製造業 | 1,250 | 土木建設サービス業 | 287 | 医療・福祉 | 50 |
| 建設業 | 677 | 学術研究専門・技術サービス業 | 167 | 金融・保険業 | 36 |
| コンピュータ・サービス業 | 597 | 通信・運輸業 | 72 | 不動産業 | 33 |
| その他のサービス業 | 409 | 電気・ガス・熱供給・水道業 | 56 | 教育関係 | 33 |
| 卸・小売業 | 363 | 宿泊・飲食・生活関連サービス業 | 55 | その他 | 63 |

04-1 カリキュラム・ポリシー

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）とは、教育目標やディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針、後述）を達成するために必要な教育課程編成の編成、授業科目の内容および教育方法について、基本的な考え方を示したものです。

本学では、本学園の「建学の精神」と本学の「教育方針」の実践を教育の根幹として、学部・学科のディプロマ・ポリシーを達成するために、以下のように学科毎にカリキュラム・ポリシーを定めています。

工学部

学部のディプロマ・ポリシーに掲げた学修目標と人材育成を達成するために、教養分野および専門分野から成る体系的なカリキュラムを構築しています。教養分野では豊かな人間性と社会性を育むための幅広い知識と教養を身に付け、専門分野では社会を取り巻く諸課題を論理的な思考力と総合的な判断力で解決するための工学の専門知識・技術を修得します。学修の順次性や

系統性に従って1年次から4年次まで配当された教養分野科目および専門分野科目の中から、各科目とディプロマ・ポリシーとの関連性を可視化したカリキュラム・ツリー等を基に学生自らが学修計画を立てて科目を履修し、単位を修得してディプロマ・ポリシーで定められた資質・能力を身に付けます。

電気電子工学科

電気電子情報工学に関する基礎および専門知識、電気電子情報工学分野の多様な課題に対応できる実践的なスキル、ならびに学部で定めた資質・能力を身に付けることを編成方針として、講義・演習・実験・ゼミが体系的に実施されるようにカリキュラムを構成しています。

- (CP1) 電気電子情報工学を学修する上で必要な数学および物理学に関する知識を、電気電子情報工学と関連付けて修得する。〔知識・理解〕
- (CP2) 電気電子情報工学分野における基盤技術、ハードウェア、ソフトウェアについて理解し、実践的な知識と技能を修得する。〔知識・理解〕
- (CP3) 電気電子情報工学分野の技術者として国内外で活躍するために必要なコミュニケーションスキルとプレゼンテーション力、および異文化理解のための国際感覚と英語力を身に付ける。〔汎用的技能〕
- (CP4) 電気電子情報工学分野の課題を自ら探求し、必要かつ適

切な手法・手順で解決につなげる能力ならびにそれらの過程を他者にわかりやすく説明できる表現力を、課題解決型学習（PBL）等を通して修得する。〔汎用的技能〕

- (CP5) 他者と協調・協働して行動できる自己管理能力とチームワーク力、目的を効率よく達成するための実践力や指導力、および得られた結果を適切に発信できる能力を身に付ける。〔汎用的技能〕
- (CP6) 社会の一員としての技術者の意識と社会的責任感・倫理観、および社会に役立つ新しい製品や技術を主体的に創り出そうとする姿勢を身に付ける。〔態度・志向性〕
- (CP7) アクティブ・ラーニング等を通して主体的に学び続ける姿勢と、学科での様々な学修を通して自律した技術者として社会生活を送ることができる態度を身に付ける。〔態度・志向性〕
- (CP8) 学習経験を通して培った知識・技能等を総合的に活用し、課題とその解決策を論理的かつ創造的に思考できる能力を修得する。〔統合的な学習経験と創造的思考力〕

機械工学科

機械工学に関する基礎および専門知識、機械工学分野の多様な課題に対応できる実践的なスキル、ならびに学部で定めた資質・能力を身に付けることを編成方針として、学生が能動的に学ぶことに重点を置きながら、講義・演習・実験・ゼミが体系的に実施されるようにカリキュラムを構成しています。

- (CP1) 機械工学を学修する上で必要な数学および物理学に関する知識を、機械工学と関連付けて修得する。〔知識・理解〕
- (CP2) 「ものづくり」の根本を理解し、機械工学の知見・諸原理・技術など「ものづくり」に必要な実践的な知識と技能を修得する。〔知識・理解〕
- (CP3) 機械技術者として国内外で活躍するために必要なコミュニケーションスキルとプレゼンテーション力、および異文化理解のための国際感覚と英語力を身に付ける。〔汎用的技能〕
- (CP4) 機械工学分野の課題を自ら探求し、必要かつ適切な手

法・手順で解決につなげる能力ならびにそれらの過程を他者にわかりやすく説明できる表現力を、課題解決型学習（PBL）等を通して修得する。〔汎用的技能〕

- (CP5) 他者と協調・協働して行動できる自己管理能力とチームワーク力、目的を効率よく達成するための実践力や指導力、および得られた結果を適切に発信できる能力を身に付ける。〔汎用的技能〕
- (CP6) 社会の一員としての技術者の意識と社会的責任感・倫理観、および社会に役立つ新しい製品や技術を主体的に創り出そうとする姿勢を身に付ける。〔態度・志向性〕
- (CP7) アクティブ・ラーニング等を通して主体的に学び続ける姿勢と、学科での様々な学修を通して自律した機械技術者として社会生活を送ることができる態度を身に付ける。〔態度・志向性〕
- (CP8) 学習経験を通して培った知識・技能等を総合的に活用し、課題とその解決策を論理的かつ創造的に思考できる能力を修得する。〔統合的な学習経験と創造的思考力〕

建築土木工学科

建築学・土木工学に関する基礎および専門知識、将来当該分野に必要な資格取得も見据えた建築・土木分野の多様な課題に対応できる実践的なスキル、ならびに学部で定めた資質・能力を身に付けることを編成方針として、学生が能動的に学ぶことに重点を置きながら、講義・演習・実験・ゼミが体系的に実施されるようにカリキュラムを構成しています。

- (CP1) 建築学および土木工学を学修する上で必要な基礎知識を、建築および土木分野の実践的な観点と関連付けて修得する。〔知識・理解〕
- (CP2) 建築学および土木工学の根幹の技術の考え方を理解し、実践的な専門知識および技能を修得する。〔知識・理解〕
- (CP3) 建築・土木技術者として地域社会および国内外で活躍するために必要なコミュニケーションスキルとプレゼンテーション力、および異文化理解のための国際感覚と英語力を身に付ける。〔汎用的技能〕
- (CP4) 建築・土木工学分野の課題を自ら探求し、必要かつ適切

な手法・手順で解決につなげる能力ならびにそれらの過程を他者にわかりやすく説明できる表現力を、課題解決型学習 (PBL) 等を通して修得する。〔汎用的技能〕

- (CP5) 他者と協調・協働して行動できる自己管理能力とチームワーク力、目的を効率よく達成するための実践力や指導力、および得られた結果を適切に発信できる能力を身に付ける。〔汎用的技能〕
- (CP6) 建築・土木技術者として、地域社会および国際社会において貢献できる社会的責任感と高い倫理観を身に付ける。〔態度・志向性〕
- (CP7) アクティブ・ラーニング等を通して能動的に学修し続ける姿勢と、学科での様々な学修を通して自律した建築・土木技術者として社会生活を送ることができる態度を身に付ける。〔態度・志向性〕
- (CP8) 学習経験を通して培った知識・技能等を総合的に活用し、課題とその解決策を論理的かつ創造的に思考できる能力を修得する。〔統合的な学習経験と創造的思考力〕

原子力技術応用工学科

原子力・放射線とそれらの安全確保に関する基礎および専門知識、原子力・放射線分野の多様な課題に対応できる実践的なスキル、ならびに学部で定めた資質・能力を身に付けることを編成方針として、学生が能動的に学ぶことに重点を置きながら、講義・演習・実験・ゼミが体系的に実施されるようにカリキュラムを構成しています。

- (CP1) 原子力・放射線技術を学修する上で必要な数学および物理学に関する知識を、原子力・放射線技術と関連付けて修得する。〔知識・理解〕
- (CP2) 原子力・放射線と電気・機械・化学・生物分野との関連性および原子力・放射線の基盤技術・放射線計測・法令等の専門知識を理解し、実践的な技能を修得する。〔知識・理解〕
- (CP3) 原子力・放射線分野の技術者として国内外で活躍するために必要なコミュニケーションスキルとプレゼンテーション力、および異文化理解のための国際感覚と英語力を身に付ける。〔汎用的技能〕

- (CP4) 原子力・放射線分野の課題を自ら探求し、必要かつ適切な手法・手順で解決につなげる能力ならびにそれらの過程を他者にわかりやすく説明できる表現力を、課題解決型学習 (PBL) 等を通して修得する。〔汎用的技能〕
- (CP5) 他者と協調・協働して行動できる自己管理能力とチームワーク力、目的を効率よく達成するための実践力や指導力、および得られた結果を適切に発信できる能力を身に付ける。〔汎用的技能〕
- (CP6) 社会の一員としての技術者の意識と社会的責任感・倫理観、および社会に役立つ新しい製品や技術を主体的に創り出そうとする姿勢を身に付ける。〔態度・志向性〕
- (CP7) アクティブ・ラーニング等を通して主体的に学び続ける姿勢と、学科での様々な学修を通して自律した技術者として社会生活を送ることができる態度を身に付ける。〔態度・志向性〕
- (CP8) 学習経験を通して培った知識・技能等を総合的に活用し、課題とその解決策を論理的かつ創造的に思考できる能力を修得する。〔統合的な学習経験と創造的思考力〕

環境情報学部

各学科のディプロマ・ポリシーに掲げた学修目標と人材育成を達成するために、教養分野および専門分野から成る体系的なカリキュラムを構築しています。教養分野では豊かな人間性と社会性を育むための幅広い知識と教養を身に付け、専門分野では環境と情報に関する今日の諸課題を論理的な思考力と総合的な判断力で解決するための専門知識・技術を修得します。学修の順次

性や系統性に従って1年次から4年次まで配当された教養分野科目および専門分野科目の中から、各科目とディプロマ・ポリシーとの関連性を可視化したカリキュラム・ツリー等を基に学生自らが学修計画を立てて科目を履修し、単位を修得して各学科のディプロマ・ポリシーで定められた資質・能力を身に付けます。

環境・食品科学科

化学・生物学の基礎知識および環境・食品に関する専門知識、環境・食品分野の多様な課題に対応できる実践的なスキル、ならびに学科で定めた資質・能力を身に付けることを編成方針として、学生が能動的に学ぶことに重点を置きながら、講義・演習・実験・ゼミが体系的に実施されるようにカリキュラムを構成しています。

- (CP1) 化学・生物学に関する知識と考え方を身に付けるとともに、それらを体系的に理解する。〔知識・理解〕
- (CP2) 環境と食品に関する専門分野科目の履修を通して、社会、自然、地球規模の視点で環境と食品を捉えることの重要性を理解する。〔知識・理解〕
- (CP3) 環境や食品に関連した多種多様な情報の中から、科学的根拠に基づいて有用で信頼性の高い情報を適切に選択できる判断力を身に付ける。〔汎用的技能〕
- (CP4) 環境や食品に係る課題を自ら探求し、必要かつ適切な手

法・手順で解決につなげる能力ならびにそれらの過程を他者にわかりやすく説明できる表現力を、課題解決型学習(PBL)を通して修得する。〔汎用的技能〕

- (CP5) 他者と協調・協働して行動できる自己管理能力とチームワーク力、目的を効率よく達成するための実践力や指導力、および得られた結果を適切に発信できる能力を身に付ける。〔汎用的技能〕
- (CP6) 倫理教育を通して倫理観と責任感、さらには環境や食品をめぐる倫理的諸問題を社会の一員として適正に判断する姿勢を身に付ける。〔態度・志向性〕
- (CP7) アクティブ・ラーニング等を通して、生涯にわたって主体的に学び続ける意欲と努力を惜しまない姿勢を身に付ける。〔態度・志向性〕
- (CP8) 学習経験を通して培った知識・技能等を総合的に活用し、課題とその解決策を論理的かつ創造的に思考できる能力を修得する。〔統合的な学習経験と創造的思考力〕

経営情報学科

経営学、経済学、情報学およびICTに関する広範な知識、高度情報社会の多様な課題に対応できる実践的なスキル、ならびに学科で定めた資質・能力を身に付けることを編成方針として、学生が能動的に学ぶことに重点を置きながら、講義・演習・実習・ゼミが体系的に実施されるようにカリキュラムを構成しています。

- (CP1) 経営学、経済学、情報学に関する基本的な知識と考え方を身に付けるとともに、それらを体系的に理解する。〔知識・理解〕
- (CP2) 経営、経済、情報に関する専門分野科目の履修を通して、ヒト・モノ・カネ・情報・地域・流通の視点で「経営情報」を捉えることの重要性を理解する。〔知識・理解〕
- (CP3) 経営や経済、情報技術等に関連した多種多様な情報の中から、基準や根拠に基づいて有用で信頼性の高い情報を適切に選択できる判断力を身に付ける。〔汎用的技能〕
- (CP4) 有益な情報に基づいて自ら課題を探求し、必要かつ適切

な手法・手順で解決につなげる能力ならびにそれらの過程を他者にわかりやすく説明できる表現力を、課題解決型学習(PBL)を通して修得する。〔汎用的技能〕

- (CP5) 他者と協調・協働して行動できる自己管理能力とチームワーク力、目的を効率よく達成するための実践力や指導力、および得られた結果を適切に発信できる能力を身に付ける。〔汎用的技能〕
- (CP6) 倫理教育を通して倫理観と責任感、さらには経営や経済、情報学をめぐる倫理的諸問題を社会の一員として適正に判断する姿勢を身に付ける。〔態度・志向性〕
- (CP7) アクティブ・ラーニング等を通して、生涯にわたって主体的に学び続ける意欲と努力を惜しまない姿勢を身に付ける。〔態度・志向性〕
- (CP8) 学習経験を通して培った知識・技能等を総合的に活用し、課題とその解決策を論理的かつ創造的に思考できる能力を身に付ける。〔統合的な学習経験と創造的思考力〕

デザイン学科

デザインの歴史的・社会的・芸術的背景およびデザインの役割やデザイナーの職能を正しく理解するように教育課程を編成しています。社会性のあるデザインコンセプトの立案、適切なメディア・表現手法を用いた作品制作、効果的なプレゼンテーションなど実践的な制作・表現能力の育成に重点を置き、講義・演習・実習・ゼミが体系的かつ有機的に実施されるようにカリキュラムを構成しています。

- (CP1) デザインに関する基本的な知識と考え方を身に付けるとともに、それらを実際に活用できる形で理解する。〔知識・理解〕
- (CP2) 環境・ヒト・モノ・情報の関係性について各自の視点や立場から理解し、それらを産業・文化・生活に役立てるためのデザイン活動に生かすようにする。〔知識・理解〕
- (CP3) デザイナーあるいはデザインの専門家として国内外で活

躍するために必要なコミュニケーションスキル、プレゼンテーション力、および異文化理解のための国際感覚を身に付ける。〔汎用的技能〕

- (CP4) デザインを通して解決すべき問題を常に意識し、それを必要かつ適切な手法・手順で解決につなげる能力とその過程を他者にわかりやすく説明できる表現力を、実習・演習における作品制作や課題解決型学習(PBL)を通して修得する。〔汎用的技能〕
- (CP5) 他者と円滑に協働できる協調性や自己管理能力などのチームワーク力、目的を効率よく達成するための実践力や指導力、およびその過程で求められる議論力を身に付ける。〔汎用的技能〕
- (CP6) デザインの社会的役割やデザイナーの職能を理解し、社

会の一員として求められる責任感と倫理観、デザイナーあるいはデザインの専門家として社会に役立つ新しい価値観や製品を主体的に創り出そうとする姿勢を身に付ける。〔態度・志向性〕

- (CP7) 作品制作体験やアクティブ・ラーニング等を通して、生涯にわたって主体的に学び続ける意欲と困難な課題においても試行錯誤を厭わない姿勢を身に付ける。〔態度・志向性〕
- (CP8) 学習経験を通して培った知識・技能等を総合的に活用し、課題について論理的に思考できる能力および解決に向けて創造的な提案ができるコンセプト立案能力を修得する。〔統合的な学習経験と創造的思考力〕

スポーツ健康科学部

学部のディプロマ・ポリシーに掲げた学修目標と人材育成を達成するために、教養分野および専門分野から成る体系的なカリキュラムを構築しています。教養分野では豊かな人間性と社会性を育むための幅広い知識と教養を身に付け、専門分野ではスポーツと健康に関する諸課題を論理的な思考力と総合的な判断力で解決するための専門知識・技術を修得します。学修の順次性

や系統性に従って1年次から4年次まで配当された教養分野科目および専門分野科目の中から、各科目とディプロマ・ポリシーとの関連性を可視化したカリキュラム・ツリー等を基に学生自らが学修計画を立てて科目を履修し、単位を修得してディプロマ・ポリシーで定められた資質・能力を身に付けます。

スポーツ健康科学科

スポーツおよび健康に関する広範な知識、人あるいは地域とスポーツとの関わりに関する考え方、スポーツ振興や健康づくりに関連する多様な課題に対応できる実践的なスキル、ならびに学部で定めた資質・能力を身に付けることを編成方針として、学生が能動的に学ぶことに重点を置きながら、講義・演習・実習・ゼミが体系的に実施されるようにカリキュラムを構成しています。

- (CP1) スポーツ健康科学に関する基本的な知識と考え方を身に付けるとともに、それらを体系的に理解する。〔知識・理解〕
- (CP2) スポーツ、健康、ビジネス等に関する専門分野科目の履修を通して、スポーツの指導者やサポートスタッフとしての職務遂行に必要な専門的知識・技術を修得する。〔知識・理解〕
- (CP3) スポーツ・健康産業界のビジネスマン、研究者、あるいは地域で活躍するスポーツ指導者として必要となる分析力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション力、指導力を身に付ける。〔汎用的技能〕

- (CP4) 有用な情報に基づいて自ら課題を探求し、必要かつ適切な手法・手順で解決につなげる能力ならびにそれらの過程を他者にわかりやすく説明できる表現力を、課題解決型学習(PBL)を通して修得する。〔汎用的技能〕
- (CP5) 他者と協調・協働して行動できる自己管理能力とチームワーク力、目的を効率よく達成するための実践力や指導力、および得られた結果を適切に発信できる力を身に付ける。〔汎用的技能〕
- (CP6) 倫理教育を通して倫理観と責任感、さらにはスポーツや健康をめぐる倫理的諸問題を社会の一員として適正に判断する姿勢を身に付ける。〔態度・志向性〕
- (CP7) アクティブ・ラーニング等を通して、生涯にわたって主体的に学び続ける意欲と努力を惜しまない姿勢を身に付ける。〔態度・志向性〕
- (CP8) 学習経験を通して培った知識・技能等を総合的に活用し、課題とその解決策を論理的かつ創造的に思考できる能力を修得する。〔統合的な学習経験と創造的思考力〕

大学院工学研究科

工学研究科では、本学園の「建学の精神」と本学の「教育方針」に則り、応用理工学専攻および社会システム学専攻の各ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるために、コース毎にカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）を定め、博士前期課程においては2年間、後期課程においては3年間の学位プログラムに基づく体系的な教育課程を編成している。博士前期課程では、各専攻・各コースの専門分野における高度の知識・技術

のみならず、広い視野に立って関連分野や学際領域の幅広い知識・技術・考え方を身につけることを目的に、広範なコースワークを重視した2専攻共通科目、全コース共通科目、複数コース共通科目およびコース専門科目からなるカリキュラムを構築している。博士後期課程においては、博士前期課程における幅広い専門教育と研究を基盤として、指導教員の下での研究指導に力点を置いた教育課程を編成している。

【応用理工学専攻】

電気電子情報工学コース

エネルギー、半導体、デバイス、情報技術など広い領域で革新を続ける電気電子情報工学に関して国内外で活躍することのできる高度専門技術者・研究者を育成するために、電力工学、電子材料・デバイス工学、物性工学、制御工学、コンピュータ情報工学

の各分野の教育と研究を通して専攻のディプロマ・ポリシーで定められた能力を修得させる教育課程を、博士前期課程および博士後期課程のそれぞれにおいて編成している。

宇宙情報科学コース

地球環境の保全および各種産業の発展に向け、グローバルな視点で宇宙空間の計測技術を活用できる高度専門技術者・研究者を育成するために、宇宙環境科学、地球環境計測工学、衛星通信工学、情報処理工学の各分野の教育と研究を通して専攻の

ディプロマ・ポリシーで定められた能力を修得させる教育課程を、博士前期課程および博士後期課程のそれぞれにおいて編成している。

機械工学コース

我が国が得意とする「ものづくり」をはじめ、あらゆる産業に関わりをもつ機械工学に関して国内外で活躍することのできる高度専門技術者・研究者を育成するために、材料工学、振動工学、流体工学、熱工学、機械システム工学の各分野の教育と研究を通

して専攻のディプロマ・ポリシーで定められた能力を修得させる教育課程を、博士前期課程および博士後期課程のそれぞれにおいて編成している。

環境生命化学コース

資源・エネルギー・地球環境・食料問題など人類が直面している重要課題の解決や持続可能な循環型社会の構築に向け、グローバルな視点で貢献できる高度専門技術者・研究者を育成するために、応用化学、環境科学、材料科学、応用生物学、生命科

学、生体工学の各分野の教育と研究を通して専攻のディプロマ・ポリシーで定められた能力を修得させる教育課程を、博士前期課程および博士後期課程のそれぞれにおいて編成している。

原子力技術応用工学コース

エネルギーの安定供給や各種産業の発展に向け、グローバルな視点で原子力発電技術および放射線応用技術を活用できる高度専門技術者・研究者を育成するために、原子力工学、原子力発電工学、放射線応用工学の各分野の教育と研究を通して専攻

のディプロマ・ポリシーで定められた能力を修得させる教育課程を、博士前期課程および博士後期課程のそれぞれにおいて編成している。

【社会システム学専攻】

土木工学コース

安全安心で持続的発展が可能な社会の基盤となる社会システムの設計・構築、維持・管理に国内外で貢献することのできる高度専門技術者・研究者を育成するために、土木計画学、水工学、環境工学、地盤工学、構造工学、防災工学の各分野の教育と研究

を通して専攻のディプロマ・ポリシーで定められた能力を修得させる教育課程を、博士前期課程および博士後期課程のそれぞれにおいて編成している。

建築学コース

建築と都市・地域社会の調和を図り、快適な都市・居住空間の実現に貢献できる高度専門技術者・研究者を育成するために、建築計画・意匠、建築設計、建築環境・設備、伝統木造建築、建築

構造工学の各分野の教育と研究を通して専攻のディプロマ・ポリシーで定められた能力を修得させる教育課程を、博士前期課程および博士後期課程のそれぞれにおいて編成している。

デザイン学コース

生活、技術、文化、芸術などの理解を踏まえて豊かな生活環境を生み出すための魅力的な提案とその実現に貢献できる高度な専門性を備えた人材を育成するために、生活創造科学、生産・環境デザイン学、情報・伝達デザイン学の各分野の実践的な教育と

研究を通して専攻のディプロマ・ポリシーで定められた能力を修得させる教育課程を、博士前期課程および博士後期課程のそれぞれにおいて編成している。

経営情報学コース

今日の高度情報社会で活躍できる能力と倫理観を兼ね備えた高度専門技術者・研究者を育成するために、経営学、経済学、情報科学の各分野の教育と研究を通して専攻のディプロマ・ポリ

シーで定められた能力を修得させる教育課程を、博士前期課程および博士後期課程のそれぞれにおいて編成している。

04-2 ALL CONNECT 寄附講座

株式会社ALL CONNECTの支援のもと、国内外の通信・情報産業分野の現状・動向を理解し、通信産業・エネルギー産業と地域社会のかかわり、環境問題等について学んでいきます。

各トピックに関する専門家を寄附講座にて招聘し、オムニバス形式で実施します。
(平成29年度 全13講座)

| 講師名 | テーマ | 講師名 | テーマ |
|----------------------------------|----------------------------|------------------------|----------------------|
| 株式会社 ALL CONNECT | 情報通信産業とアントレプレナーシップ、本講座への期待 | 米IBMワトソン研究所/慶應義塾大学客員教授 | 情報・通信産業の歴史とAI |
| 経済産業省・商務情報産業局 | 安心・安全と地域・環境問題 | 前 中部経済産業局長 | 日中経済関係にて、『中国経済と技術革新』 |
| 東京大学公共政策大学院・教授 前 JETRO ロンドン所長 | 国際問題と国際協定 | 関西電力株式会社 原子力事業本部 | 電力事業と原子力発電・地域会 |
| 株式会社スターフライヤー | 航空産業と地域社会 | 一般財団法人 日本国際協力センター | 国際協力と地域・環境 |
| 東京理科大・特任教授 東洋大学・特別講師 | エネルギーと経済 | 東京大学・先端科学技術研究センター | 地域医療と医療の情報化・見える化 |
| 北陸電力株式会社 | 電力産業の現状と展望 | 経済産業省・近畿経済産業局 | 関西経済の活性化に向けて |
| 京都大学大学院 総合生存学館教授 | 資源エネルギーと社会・環境 | | |

04-3 地域共生学

地域共生学は、地域で活躍中の方々を客員教授として招聘し、それぞれの専門分野の現況や将来について、仕事に関わる心構え、会社や社会が求める人材像、そのために身につけておかなければならないことなどをお話いただき、学生たちが広く地域社

会に目を向け、意識を高められるようにと、平成17年度から開講している授業です。

平成29年度に招聘した客員教授及び授業テーマは、次のとおりです。

| 講師名 | テーマ | 講師名 | テーマ |
|--------------------------|---------------------------------|--------------------------------------|-------------------------------|
| 野村證券株式会社 山井 久也 氏 | インフレと増税 | 元 国立研究開発法人 日本原子力研究開発機構 野田 正男 氏 | 卒業生が語る地域共生 |
| 株式会社アイビックス 一ツ矢法利 氏 | 安全・安心な社会を創る警備業と セキュリティシステム | 永平寺町長 河合 永充 氏 | 伝統文化×先端技術 ～守ることは進化すること～ |
| 福井放送株式会社 島寄 正行 氏 | 環境激変!放送・通信融合時代! ～ローカル局の迎撃作戦～ | 福井エフエム放送株式会社 栗田 剛夫 氏 | FM福井からのメッセージ |
| 自衛隊福井地方協力本部 村上 健悟 氏 | 自衛隊の概要について | 株式会社福井県民球団 新谷 隆美 氏 | プロ野球独立リーグの変遷と 福井ミラクルエレファンツ |
| 福井テレビジョン放送株式会社 光野 稔 氏 | テレビリテラシー | 前田工織株式会社 前田 征利 氏 | 混ぜる会社 前田工織 |
| 大電産業株式会社 今村 善孝 氏 | 時代の潮流 | 関西電力株式会社 右城 望 氏 | 関西電力における地域共生活動 の概要 |
| 株式会社福井銀行 林 正博 氏 | 地域経済と金融機関の関わり | 株式会社 ALL CONNECT 岩井 宏太 氏 | 社会人になって3年で10億円稼ぐ 方法 |
| 鯖江市長 牧野 百男 氏 | 世界にはばたく地域ブランド 「めがねのまちさばえ」 | 村中建設株式会社 藤井 担 氏 | 建築業～設計施工の最前線 |

05 学修の成果・卒業認定

05-1 ディプロマ・ポリシー

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）とは、本学で卒業を認定し、学士の学位を授与するに当たって、卒業までに身に付けておくべき資質・能力等を示したものです。

本学では、本学園の「建学の精神」と本学の「教育方針」に則って策定されたカリキュラム・ポリシーに基づく体系的な学士課程教

育を通して、豊かな教養と学部・学科の定めた資質および能力を身につけ、卒業要件を充足し、さらに各学科が独自に行う学士力の検証において一定の評価を得た者に卒業を認定し、学士の学位を授与します。

工学部

工学部は、国際・地域社会で活躍する健全な人格を身に付けた実践的な技術者を育成し、社会に送り出すことを通して、社会の発展と繁栄に寄与することを目的としています。この人材育成のための教養分野と専門分野とを体系化した学士課程教育の中で、各分野における科目の学習到達目標を達成して卒業要件を充足し、以下に示す資質・能力を身に付け、学科が独自に行う学士力の検証試験に合格した者に卒業を認定し、学士（工学）の学位を授与します。

- (DP1) それぞれの専門分野の基盤的な知識を、社会・自然との関連性も含めて体系的に理解・修得している。〔知識・理解〕
- (DP2) それぞれの専門分野における基礎から専門までの知識・技術と、それらを応用し得る基礎能力を身に付けている。

〔知識・理解〕

- (DP3) 技術者として国内外で活躍するために必要な英語力を含めたコミュニケーション能力とプレゼンテーション力、および他者と連携・協働することのできるチームワーク力を身に付けている。〔汎用的技能〕
- (DP4) 社会の一員としての技術者の意識と社会的責任感・倫理観、および社会に役立つ新しい製品や技術を主体的に創り出そうとする意志を持っている。〔態度・志向性〕
- (DP5) 学習経験を通して培った知識・技能等を総合的に活用し、論理的かつ創造的な思考によって課題解決に取り組むことのできる能力を身に付けている。〔統合的な学習経験と創造的思考力〕

環境情報学部

環境情報学部は、環境と情報の世紀にふさわしい新たな価値観を生み出すことのできる豊かな創造性と人間性を兼ね備えた人材を育成し、社会に送り出すことを通して、社会の発展と繁栄に寄与することを目的としています。この人材育成のための教養

分野と専門分野とを体系化した学士課程教育の中で、各分野における科目の学習到達目標を達成して卒業要件を充足し、各学科が定める資質・能力を身に付け、学科が独自に行う学士力の検証試験に合格した者に卒業を認定し、学士の学位を授与します。

環境・食品科学科

環境・食品科学科は、環境・食品に関する専門知識と技術および社会的責任感と高い倫理観を身に付け、環境や食品に関する重要課題の解決・改善に取り組むことのできる人材の育成・輩出を通して、安全・安心で持続可能な社会の構築に貢献することを目的としています。卒業要件を満たし、以下の資質・能力を身に付け、学士力の検証試験に合格した者に卒業を認定し、学士（環境科学）を授与します。

- (DP1) 化学および生物学に関する基本的な知識を体系的に理解して身に付けている。〔知識・理解〕
- (DP2) 環境および食品関連分野の専門知識を社会・自然など多方面から理解して身に付けている。〔知識・理解〕

- (DP3) 環境あるいは食品分野の技術者として、国内外で活躍するために必要な英語力を含めたコミュニケーション能力とプレゼンテーション力、および他者と連携・協働することのできるチームワーク力を身に付けている。〔汎用的技能〕
- (DP4) 社会の一員として確固たる倫理観と責任感、および環境の保全・保護や食の安全・安心に積極的に貢献しようとする意志を持っている。〔態度・志向性〕
- (DP5) 学習経験を通して培った知識・技能等を総合的に活用し、創造的かつ論理的な思考によって課題解決に取り組むことのできる能力を身に付けている。〔統合的な学習経験と創造的思考力〕

経営情報学科

経営情報学科では、経営・経済・情報に関する広範な知識と豊かな創造性を備え、企業や現代社会が直面する課題の解決に関係者と協調しながら能動的に取り組むとともに、今日の社会インフラを支える高度情報通信技術を駆使して新たなビジネスモデルを構築できる人材を育成することで、これからの高度情報社会の発展に貢献することを目的としています。卒業要件を満たし、以下の資質・能力を身に付け、学士力の検証試験に合格した者

に卒業を認定し、学士（経営情報学）を授与します。

- (DP1) 経営学、経済学、情報学に関連する基本的な知識を体系的に理解して身に付けている。〔知識・理解〕
- (DP2) 「経営情報」を「ヒト・モノ・カネ・情報」および「地域・流通」の専門的視点で捉えるとともに、地域活性化や産業振興と関連付けて理解している。〔知識・理解〕

(DP3) 経営や経済、情報技術等の専門家として、国内外で活躍するために必要な英語力を含めたコミュニケーション能力とプレゼンテーション力、および他者と連携・協働することのできるチームワーク力を身に付けている。〔汎用的技能〕

(DP4) 社会の一員として確固たる倫理観と責任感、および高度

情報社会のさらなる発展のために積極的に貢献しようとする意志を持っている。〔態度・志向性〕

(DP5) 学習経験を通して培った知識・技能等を総合的に活用し、創造的かつ論理的な思考によって課題解決に取り組むことのできる能力を身に付けている。〔統合的な学習経験と創造的思考力〕

デザイン学科

デザイン学科では、デザインの歴史的・社会的・芸術的背景およびデザインの役割やデザイナーの職能を正しく理解し、新しい発想による問題解決と真に豊かな生活スタイルを提案できるデザイナーあるいはデザインの専門家の育成・輩出を通して、持続可能な社会の構築に貢献することを目的としています。卒業要件を充足し、以下の資質・能力を身に付け、学士力の検証試験に合格した者に卒業を認定し、学士(デザイン学)の学位を授与します。

(DP1) デザインを体系的に理解するために必要な基礎知識、産業や文化における様々な課題や多様な価値観に対する理解、ならびにデザインを人や社会のために役立てるための考え方を身に付けている。〔知識・理解〕

(DP2) 一般的なメディアや表現方法を用いて実用性のある基礎的な作品を制作することの意義、ならびに社会性のある価値基準や思想、独自のデザイン観に根ざした信念など

に基づいて新規性または独創性のあるデザインの解決を導くための方法を理解している。〔知識・理解〕

(DP3) 自らの所属するチームの中で円滑かつ創造的に協働できる協調性と自己管理能力、および目的達成のために必要となるコミュニケーション能力とプレゼンテーション力を身に付けている。〔汎用的技能〕

(DP4) 社会の一員として求められる倫理観と責任感、および人類の生活の向上と産業の発展や持続可能な社会の実現のために積極的に貢献しようとする意志を持っている。〔態度・志向性〕

(DP5) 学習経験を通して培った知識・技能等を総合的に活用し、創造的かつ論理的な思考ならびに試行錯誤を厭わない多様な手段で課題解決に取り組むことのできる能力を身に付けている。〔統合的な学習経験と創造的思考力〕

スポーツ健康科学部

スポーツ健康科学部は、国内外のスポーツおよび健康関連分野で活躍する豊かな創造性と人間性を兼ね備えた指導者・スタッフを育成し、社会に送り出すことを通して、社会の発展と繁栄に寄与することを目的としています。この人材育成のための教養分野と専門分野とを体系化した学士課程教育の中で、各分野における科目の学習到達目標を達成して卒業要件を充足し、以下に示す資質・能力を身に付け、学科が独自に行う学士力の検証試験に合格した者に卒業を認定し、学士(スポーツ健康科学)の学位を授与します。

(DP1) スポーツ健康科学を体系的に理解する上で必要な基本的知識を身に付けている。〔知識・理解〕

(DP2) スポーツの指導者やサポートスタッフとしての職務遂行に

必要な専門的知識・技術を身に付けている。〔知識・理解〕

(DP3) スポーツ・健康産業界のビジネスマン、研究者、あるいは地域で活躍するスポーツ指導者として必要となる分析力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション力、指導力およびチームワーク力を修得している。〔汎用的技能〕

(DP4) 社会の一員として確固たる倫理観と責任感、およびスポーツの発展や人々の健康への関心と社会の福祉に貢献しようとする意志を持っている。〔態度・志向性〕

(DP5) 学習経験を通して培った知識・技能等を総合的に活用し、創造的かつ論理的な思考によって課題解決に取り組むことのできる能力を身に付けている。〔統合的な学習経験と創造的思考力〕

大学院工学研究科

工学研究科では、博士前期課程および博士後期課程の学位プログラムに基づく体系的な教育課程に即して実践される教育と研究を通して、各専攻で定める以下の能力を身につけ、所定の単

位を修得し、論文審査と学位規定に定める最終試験に合格したものに学位を授与する。

【応用理工学専攻】

《博士前期課程》

以下の能力を身につけ、所定の単位を修得し、論文審査と学位規定に定める最終試験に合格したものに修士(工学)の学位を授与する。

1. 科学技術の意義と重要性を理解し、コースの専門分野で必要とされる高度な専門知識・技術と倫理観を身につけている。
2. 科学技術の発展のために、コースの専門分野で必要とされる研究能力を有している。
3. コースにおいて修得した高度な専門知識・技術と研究能力を基に、自ら課題を発見・設定し、論理的に解決する能力を身につけている。
4. コースの専門分野において得た研究成果を社会に公表し、修士論文を作成する能力を有している。

《博士後期課程》

以下の能力を身につけ、論文審査と学位規定に定める最終試験に合格したものに博士(工学)の学位を授与する。

1. 科学技術の意義と重要性を深く理解し、コースの専門分野で必要とされるより高度な専門知識・技術と高い倫理観を身につけている。
2. 科学技術のさらなる発展のために、コースの専門分野の研究者として学際的・国際的な研究を推進できる能力を有している。
3. コースにおいて修得したより高度な専門知識・技術と研究能力を基に、柔軟な思考と高い見識で自ら課題を発見・設定し、独創的に解決する能力を身につけている。
4. コースの専門分野において得た研究成果を社会に積極的に公表し、博士論文を作成する能力を有している。

【社会システム学専攻】

《博士前期課程》

以下の能力を身につけ、所定の単位を修得し、論文審査と学位規定に定める最終試験に合格したものに修士(工学)の学位を授与する。

1. 社会システムの意義と重要性を理解し、コースの専門分野で必要とされる高度な専門知識・技術と倫理観を身につけている。
2. 複雑な社会システムに対応するために、コースの専門分野で必要とされる研究能力を有している。
3. コースにおいて修得した高度な専門知識・技術と研究能力を基に、自ら課題を発見・設定し、論理的に解決する能力を身につけている。
4. コースの専門分野において得た研究成果を社会に公表し、修士論文を作成する能力を有している。

《博士後期課程》

以下の能力を身につけ、論文審査と学位規定に定める最終試験に合格したものに博士(工学)の学位を授与する。

1. 社会システムの意義と重要性を深く理解し、より高度な専門知識・技術と高い倫理観を身につけている。
2. より複雑な社会システムに対応するために、コースの専門分野の研究者として学際的・国際的な研究を推進できる能力を有している。
3. コースにおいて修得したより高度な専門知識・技術と研究能力を基に、柔軟な思考と高い見識で自ら課題を発見・設定し、独創的に解決する能力を身につけている。
4. コースの専門分野において得た研究成果を社会に積極的に公表し、博士論文を作成する能力を有している。

05-2 評価方法

単位認定と評定

各科目の単位数は、試験(筆記試験、報告書その他)で認定されます。評定100を満点として、60以上であれば単位を修得したことになります。また、合格した科目については「秀」(90以上)、「優」(80以上)、「良」(70以上)、「可」(60以上)の4種類で表し、不合格の場合は「不可」(60未満)と記します。

成績評価、履修指導にGPA制度を採用

本学では、それぞれの学生が受講登録した科目について、一人ひとりのGPA(Grade Point Average)を算出しています。GPAは「成績加重平均値」といわれるものです。大学のカリキュラムにおいては、専門分野が多岐にわたり、個々の学生の就学目標も異なります。このように多様なカリキュラムにおいて、「学ぶ量」だけでなく「学ぶ質」を、できるだけ公平に評価する方法としてGPA制度があります。このGPAを参考にしながら、履修指導や学生生活支援、就職相談などが行われます。成績や学習意欲向上のための目安とされています。

05-3 卒業・修了に必要な単位数・取得可能な学位

卒業・修了までに必要な単位数

学部 卒業までに次の要件を含め合計124単位以上の修得が必要です。(必修科目+選択科目)

| 入学年度 | 分野 | 系 | 卒業条件(区分別卒業所要単位数) | | | | |
|--|-------------------------------|------------------|------------------------|-------------------------------------|------------------------|--------------------------------|--------------------------------|
| 工 学 部 | 平成 27年度 ～ 平成 30年度 | 教養分野 | 人文社会 | 10単位以上 (A～C群の各群において 最低2単位を含む) | 必修科目を含めて 52単位以上 | 必修科目を含めた 修得単位数総数 124単位以上 | |
| | | | 外国語 | 必修科目を含めて20単位以上 | | | |
| | | | キャリア形成 | 必修科目を含めて14単位以上 | | | |
| | | | 工学基礎 | 必修科目を含めて 8単位以上 | | | |
| | 専門分野 | (各学科の専門分野課程表による) | 必修科目を含めて 72単位以上 | | | | |
| 環 境 情 報 学 部 | 平成 27年度 ～ 平成 30年度 | 教養分野 | 人文社会 | 10単位以上 (A～C群の各群において 最低2単位を含む) | 必修科目を含めて 48単位以上 | 必修科目を含めた 修得単位数総数 124単位以上 | |
| | | | 外国語 | 必修科目を含めて20単位以上 | | | |
| | | | キャリア形成 | 必修科目を含めて14単位以上 | | | |
| | | | 科学基礎 | 必修科目を含めて 4単位以上 | | | |
| | 専門分野 | (各学科の専門分野課程表による) | 必修科目を含めて 76単位以上 | | | | |
| ス ポ ー ツ 健 康 科 学 部 | 平成 27年度 ～ 平成 30年度 | 教養分野 | 人文社会 | 10単位以上 (A～C群の各群において 最低2単位を含む) | 必修科目を 含めて 48単位以上 | 左記の所要単位数 以外に4単位以上 | 必修科目を含めた 修得単位数総数 124単位以上 |
| | | | 外国語 | 必修科目を含めて20単位以上 | | | |
| | | | キャリア形成 | 必修科目を含めて14単位以上 | | | |
| | | | 科学基礎 | 必修科目を含めて 4単位以上 | | | |
| | 専門分野 | (各学科の専門分野課程表による) | 必修科目を 含めて 72単位以上 | | | | |
| ※スポーツ健康科学部については、各分野(系)別に定められた卒業所要単位数以外に、教養分野及び専門分野において、4単位以上の単位取得が必要である。この4単位については、個人の興味によって全ての分野の中から任意に選択できる。 | | | | | | | |

大学院工学研究科 博士前期課程修了までに次の要件を含め合計30単位以上の修得が必要です。(必修科目+選択科目)

| 入学年度 | 専攻 | 分野 | 修了条件 | | |
|------------------|----------------------|---------|----------------|-------------------------------|--|
| 平成29年度 平成30年度 | 応用理工学専攻 社会システム学専攻 | 2専攻共通科目 | 6単位以上 | 必修科目を含めた 修得単位数総数 30単位以上 | |
| | | 専門科目 | 必修科目を含めて20単位以上 | | |

授業は2つに分類された科目と教職課程があります。

必修科目

学科・専攻コース別に履修が義務づけられています。

選択科目

それぞれの希望に応じて選択・履修します。

+

教職課程

教員免許状の取得に必要な科目も設定されています。

取得可能な学位

本学において授与する学位の専攻分野の名称は、以下の通りです。

学士の学位

| 学部名 | 学科名 | 専攻分野名 |
|-----------|------------|----------|
| 工学部 | 電気電子工学科 | 工学 |
| | 電気電子情報工学科 | |
| | 機械工学科 | |
| | 建築土木工学科 | |
| | 建築生活環境学科 | |
| | 原子力技術応用工学科 | |
| | 経営情報学科 | |
| | デザイン学科 | |
| | 産業ビジネス学科 | |
| 環境情報学部 | 環境・食品科学科 | 環境科学 |
| | 経営情報学科 | 経営情報学 |
| | デザイン学科 | デザイン学 |
| スポーツ健康科学部 | スポーツ健康科学科 | スポーツ健康科学 |

※経営情報学科、デザイン学科については、平成26年度以前の入学生までは、学士(工学)。

修士の学位

| 研究科名 | 専攻名 | 専攻分野名 |
|-------|-----------|-------|
| 工学研究科 | 応用理工学専攻 | 工学 |
| | 社会システム学専攻 | |

博士の学位

| 研究科名 | 専攻名 | 専攻分野名 |
|-------|-----------|-------|
| 工学研究科 | 応用理工学専攻 | 工学 |
| | 社会システム学専攻 | |

本学で取得できる教職免許状の種類

■学部

平成27年度以降入学生

| 教員免許状の種類 | | 対象学部・学科 | |
|-------------|------|-----------|----------------------------------|
| 高等学校教諭一種免許状 | 工業 | 工学部 | 電気電子工学科、機械工学科、建築土木工学科、原子力技術応用工学科 |
| | | 環境情報学部 | デザイン学科 |
| | 情報 | 環境情報学部 | 経営情報学科 |
| | 理科 | 環境情報学部 | 環境・食品科学科 |
| 中学校教諭一種免許状 | 理科 | 環境情報学部 | 環境・食品科学科 |
| | | スポーツ健康科学部 | スポーツ健康科学科 |
| | 保健体育 | スポーツ健康科学部 | スポーツ健康科学科 |

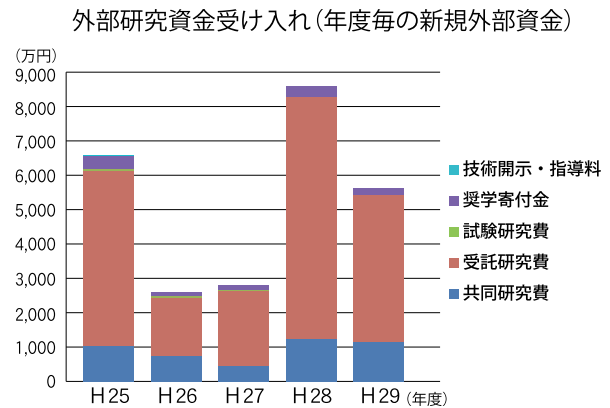
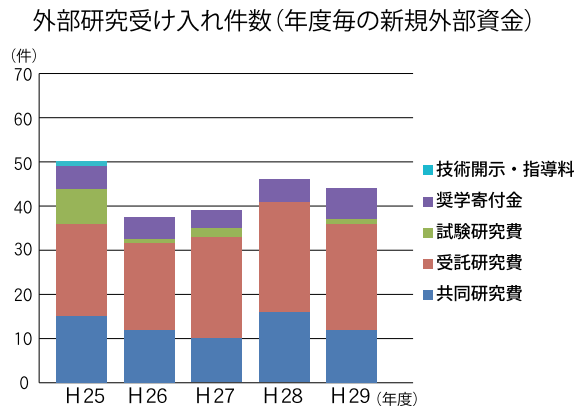
平成26年度以前入学生

| 教員免許状の種類 | | 対象学部・学科 | |
|-------------|----|---------|---|
| 高等学校教諭一種免許状 | 工業 | 工学部 | 電気電子情報工学科、機械工学科、建築生活環境学科、デザイン学科、産業ビジネス学科、環境生命化学科、原子力技術応用工学科 |
| | 情報 | 工学部 | 経営情報学科 |

■大学院工学研究科

| 教員免許状の種類 | | 対象専攻・コース | |
|-------------|----|-----------|--|
| 高等学校教諭専修免許状 | 工業 | 応用理工学専攻 | 電気電子情報工学コース、宇宙情報科学コース、機械工学コース、環境生命化学コース、原子力技術応用工学コース |
| | | 社会システム学専攻 | 土木工学コース、建築学コース、デザイン学コース |
| | 情報 | 社会システム学専攻 | 経営情報学コース |

06-1 外部資金・受託研究費



外部研究受入件数の年度毎推移

(単位:件)

| | 共同研究費 | 受託研究費 | 試験研究費 | 奨学寄付金 | 技術開示・指導料 | 総件数 |
|--------|-------|-------|-------|-------|----------|-----|
| 平成25年度 | 15 | 21 | 8 | 5 | 1 | 50 |
| 平成26年度 | 12 | 20 | 1 | 5 | 0 | 38 |
| 平成27年度 | 10 | 23 | 2 | 4 | 0 | 39 |
| 平成28年度 | 16 | 25 | 0 | 5 | 0 | 46 |
| 平成29年度 | 12 | 24 | 1 | 7 | 0 | 44 |

外部研究受入資金の年度毎推移

(単位:円)

| | 共同研究費 | 受託研究費 | 試験研究費 | 奨学寄付金 | 技術開示・指導料 | 総額 |
|--------|------------|------------|---------|-----------|----------|------------|
| 平成25年度 | 10,333,100 | 51,007,715 | 699,780 | 3,610,000 | 52,500 | 65,703,095 |
| 平成26年度 | 7,628,150 | 17,645,569 | 415,800 | 1,100,000 | 0 | 26,789,519 |
| 平成27年度 | 4,690,344 | 21,757,816 | 488,268 | 1,193,482 | 0 | 28,129,910 |
| 平成28年度 | 11,992,380 | 69,991,570 | 0 | 3,200,000 | 0 | 85,183,950 |
| 平成29年度 | 11,776,000 | 42,518,431 | 9,504 | 2,140,000 | 0 | 56,443,935 |

06-2 知的財産

特許

| 発明名称 | 出願人 | 本学発明者 | 特許番号 |
|--|---|--------------|-----------------|
| 脳疾患診断装置、信号解析方法及び脳解析プログラム | 学校法人金井学園 国立大学法人福井大学 | 山西輝也 信川 創 | 特許公開2018-019895 |
| 放射線感応性ゲルインジケータ、及びその調製方法、及びその使用方法、及びその処理方法 | 学校法人金井学園 株式会社NUCLEARTECHNOLOGY (公助)若狭湾エネルギー研究センター | 砂川武義 吉橋幸子 | 特許公開2018-013402 |
| 加熱攪拌装置 | 学校法人金井学園 関西電力株式会社 | 中尾一成 | 特許公開2018-001142 |
| 初期雨水除去装置とこれを備えた雨水タンク装置、雨水タンク装置の通信ネットワーク、初期雨水除去方法 | 学校法人金井学園 | 笠井利浩 | 特許公開2017-145680 |
| 電磁波検出器及び電磁波検出方法 | 学校法人金井学園 国立大学法人福井大学 | 栞島史欣 | 特許公開2015-161669 |
| 電磁波の位相速度制御方法及び位相速度制御構造 | 学校法人金井学園 国立大学法人福井大学 | 栞島史欣 | 特許第6217963号 |
| 電磁波検出方法及び電磁波検出装置 | 学校法人金井学園 国立大学法人福井大学 | 栞島史欣 | 特許第5963080号 |
| 光記録再生装置の光ビーム焦点位置決め機構、及びその方法 | 学校法人金井学園 | 藤田輝雄 | 特許第6042255号 |
| 都市型洪水緩和システム | 学校法人金井学園 | 笠井利浩 中城智之 | 特許第5769266号 |
| ゲル状玩具製作キット | 学校法人金井学園 | 砂川武義 江藤一兼 | 特許第6068015号 |
| 導電ケーブルにおける被覆絶縁体の劣化測定装置および劣化測定方法 | 学校法人金井学園 | 砂川武義 | 特許第5495062号 |
| 光記録再生媒体の焦点誤差検出方法、およびそれに用いる発光装置のビーム分割調節器 | 学校法人金井学園 | 藤田輝雄 | 特許第5207240号 |
| 生分解性に優れた熱成形材料及びその製造方法、並びに熱成形体 | 学校法人金井学園 | 畠山兵衛 | 特許第5184953号 |
| 両親媒性を有する生分解性ポリエステル及びその製造方法 | 学校法人金井学園 | 畠山兵衛 | 特許第4559783号 |
| 光照射による分子挙動の観測方法および同法に用いるクロスパイプ型マイクロ波空洞共振器 | 学校法人金井学園 | 砂川武義 | 特許第4401700号 |
| 木質ボード積層体 | 学校法人金井学園 | 畠山兵衛 藤井博知 | 特許第4021348号 |

07 社会貢献

07-1 福井工業大学未来塾

地域の皆さま向けのオープンカレッジです。各界の著名な講師をお迎えする「講演会」と一般市民向けの「FUT公開講座」を開催しています。

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 |
|-------------|--------|--------|--------|
| 講演会 来場者数 | 735 名 | 478 名 | 685 名 |

未来塾(講演会)

| | | | |
|------------------------------|---------------------------|---------------------------|--|
| 平成27年度 第1回 (平成27年9月13日開催) | 武田 双雲(書道家) 「ポジティブの教科書」 | 平成28年度 (平成28年11月3日開催) | 福澤 朗(フリーアナウンサー) 「NoチャレンジNo LIFE!～チャレンジライフのコミュニケーション術」 |
| 平成27年度 第2回 (平成28年1月31日開催) | 野村 忠宏(柔道家) 「折れない心」 | 平成29年度 (平成29年11月18日開催) | 東国原 英夫(政治家) 「福井をどげんかせんといかん～地方を元気に!地域ブランド攻略」 |

FUT公開講座

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 |
|-------|--------|--------|--------|
| 年間講座数 | 29 講座 | 21 講座 | 52 講座 |
| 総参加者数 | 430 名 | 290 名 | 493 名 |



未来塾(講演会)



FUT公開講座



07-2 学科主催講座、大学連携センター(Fスクエア)開講科目

学科主催講座

| | 公開講座テーマ | | 総参加者数 |
|--------|------------------|--|-------|
| 平成27年度 | 前期 (8月5日開催) | 食の安全とこれからを考える | 132 名 |
| | 後期 (11月11日開催) | 放射線と量子工学の新展開ー福井・大阪の連携ー | 92 名 |
| 平成28年度 | 前期 (7月20日開催) | 英語コミュニケーション力をどのようにして身につけるか | 195 名 |
| | 後期 (12月17日開催) | あなたも宇宙に手が届く～福井に身近な宇宙とその展望～ | 183 名 |
| 平成29年度 | 前期 (7月19日開催) | 宇宙に挑む機械工学 | 140 名 |
| | 後期 (11月8日開催) | 地域資源としての星空の価値とふくい地域ブランド創出の可能性～"ふくいPHONEX"プロジェクト～ | 163 名 |

大学連携センター(Fスクエア)での開講科目

| | 平成29年度 |
|-----------|--------|
| 本学教員の開講科目 | 6 科目 |



学科主催講座

07-3 FUT科学実験キャラバン、出前講義・出前実験 等

さまざまな場所で理科教育普及のお手伝いをしています。

FUT科学実験キャラバン、出前講義・出前実験 実施対象件数及び人数

| | 平成27年度 | | 平成28年度 | | 平成29年度 | |
|------------|--------|---------|--------|---------|--------|---------|
| | 件数 | 人数 | 件数 | 人数 | 件数 | 人数 |
| 幼稚園・保育園 | 1 件 | 53 名 | 6 件 | 480 名 | 4 件 | 336 名 |
| 小学生 | 5 件 | 197 名 | 13 件 | 1,210 名 | 12 件 | 1,165 名 |
| 中学生 | 2 件 | 130 名 | 1 件 | 126 名 | — | — |
| 高校生 | 27 件 | 1,195 名 | 22 件 | 525 名 | 14 件 | 534 名 |
| イベント参加・その他 | 13 件 | 3,001 名 | 6 件 | 1,591 名 | 5 件 | 973 名 |
| 合計 | 48 件 | 4,576 名 | 48 件 | 3,932 名 | 35 件 | 3,008 名 |



子どもゆめ基金事業 (独)国立青少年教育振興機構

国と民間が協力して、子供の体験・読書活動などを応援し、子供の健全育成を手助けする基金事業

| 年度 | テ ー マ |
|--------|---|
| 平成27年度 | できる! 楽しい! 「ものづくり実験」 —アイデア知能ロボットを作って遊ぼう— —食品サンプル&オリジナルアートガラス製作— |
| 平成28年度 | できる! 楽しい! ためになる! 「ものづくり実験」 —フードアクセサリー&オリジナルアートガラス製作— できる! 楽しい! 役に立つ! 「ものづくり実験」 —アイデア知能ロボットを作って遊ぼう— |
| 平成29年度 | できる! 楽しい! 役に立つ! 「ものづくり実験」 —アイデア知能ロボットを作って遊ぼう— 7/8, 8/5, 9/9, 10/14 —フードアクセサリー&オリジナルガラス製作— 10/7, 10/8 |



07-4 ロボキャンブ

レゴ・マインドストームを用いた親子対象のロボット製作教室とWRO (World Robot Olympiad) Japan の福井地区予選会・福井大会を開催しています。

| | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 |
|--------------|---------|----------|---------|
| 親子製作教室 | 10組 21名 | 16組 35名 | 15組 37名 |
| ベーシックコース福井大会 | — | 14組 26名 | 5組 14名 |
| 予選会小学生コース | 8組 20名 | 5組 12名 | 6組 17名 |
| 予選会中学生コース | 5組 13名 | 4組 9名 | 1組 3名 |
| 予選会高校生コース | 12組 35名 | 11組 29名 | 9組 27名 |
| 合計 | 35組 89名 | 50組 111名 | 36組 98名 |



07-5 自治体との連携

協定締結自治体等

| 自治体等名 | 締結年月日 | 協定種別 |
|--------------------|-------------|-------------------------------------|
| 勝山市 | 平成16年 4月14日 | 相互協力協定 |
| あわら市 | 平成17年 7月20日 | 相互協力協定 |
| 鯖江市・鯖江商工会議所 | 平成21年 7月29日 | 相互連携協定 |
| 福井市 | 平成21年11月26日 | 相互協力協定 |
| 敦賀市・敦賀商工会議所 | 平成22年10月 1日 | 相互連携協定 |
| 坂井市 | 平成23年 5月24日 | 相互協力協定 |
| 越前市・武生商工会議所・越前市商工会 | 平成23年10月25日 | 相互連携協定 |
| 若狭町 | 平成29年 9月20日 | 相互連携協定 <small>※学校法人金井学園との調印</small> |
| 大野市 | 平成30年 4月18日 | 相互協力協定 |

※それぞれの自治体等と協議会、連絡会等を実施し、現在様々な取組を実施しています。

自治体等の連携イベント

| | | |
|--------|--|---|
| 平成27年度 | まちフェス 勝山恐竜クロカンマラソン あわら温泉カヌーフェスティバル さばえ環境フェア サンドーム福井 おもしろフェスタ(2日間) | 越前モノづくりフェスタ(3日間) 東安居公民館まつり 鯖江市高年大学出前講義 さばえものづくり博覧会(3日間) |
| 平成28年度 | まちフェス 勝山恐竜クロカンマラソン あわら温泉カヌーフェスティバル さばえ環境フェア 越前モノづくりフェスタ(3日間) 東安居公民館まつり | 鯖江市高年大学出前講義 さばえものづくり博覧会(3日間) 恐竜キッズ(3日間) 坂井市B1グランプリ 坂井キャナルフェスタ |
| 平成29年度 | 勝山恐竜クロカンマラソン TOYOTA GAZOO Racing Rally Challenge in 恐竜勝山 さばえ環境フェア フクイ夢アート2017 | 越前モノづくりフェスタ(3日間) 勝山産業フェア2017 さばえものづくり博覧会(3日間) 東安居公民館まつり |



勝山市市制60周年記念 科学実験キャラバン



サンドーム福井 おもしろフェスタ



さばえ環境フェア

08 入学金・授業料・その他費用

08-1 入学金・授業料・その他費用

学費・委託徴収金については、次のとおりです。

学部

| 学部 | 学 費 | | | 主な委託徴収金 | | | | |
|-------|-------|---------------|----------|----------|-----------------------|--------------|---------|--------|
| | | 前期(入学手続時) | 後 期 | | | | | |
| 工 学 部 | 入学金 | | 250,000円 | — | 学生会 | 入会金(入学初年度のみ) | 500円 | |
| | 学 納 金 | 授業料 | 465,000円 | 465,000円 | 学生会 | 会 費 | 7,000円 | |
| | | 設備充実費 | 120,000円 | 120,000円 | 後援会費 | | | 7,500円 |
| | | 実験実習費 | 40,000円 | 40,000円 | 学生健康保険組合費(4ヶ年間分) | | | 8,000円 |
| | | 厚生衛生費(冷暖房費含む) | 15,000円 | 15,000円 | 学生教育研究災害傷害費保険料(4ヶ年間分) | | | 3,300円 |
| | | | | | 学生教育研究賠償責任保険料(4ヶ年間分) | | | 1,360円 |
| 合 計 | | 890,000円 | 640,000円 | 合 計 | | | 27,660円 | |

| 学部 | 学 費 | | | 主な委託徴収金 | | | | |
|-------------|-------|---------------|----------|----------|-----------------------|--------------|---------|--------|
| | | 前期(入学手続時) | 後 期 | | | | | |
| 環 境 情 報 学 部 | 入学金 | | 250,000円 | — | 学生会 | 入会金(入学初年度のみ) | 500円 | |
| | 学 納 金 | 授業料 | 465,000円 | 465,000円 | 学生会 | 会 費 | 7,000円 | |
| | | 設備充実費 | 120,000円 | 120,000円 | 後援会費 | | | 7,500円 |
| | | 実験実習費 | 40,000円 | 40,000円 | 学生健康保険組合費(4ヶ年間分) | | | 8,000円 |
| | | 厚生衛生費(冷暖房費含む) | 15,000円 | 15,000円 | 学生教育研究災害傷害費保険料(4ヶ年間分) | | | 3,300円 |
| | | | | | 学生教育研究賠償責任保険料(4ヶ年間分) | | | 1,360円 |
| 合 計 | | 890,000円 | 640,000円 | 合 計 | | | 27,660円 | |

| 学部 | 学 費 | | | 主な委託徴収金 | | | | |
|------------------|-------|---------------|----------|----------|-----------------------|--------------|---------|--------|
| | | 前期(入学手続時) | 後 期 | | | | | |
| ス ポー ツ 健 康 科 学 部 | 入学金 | | 250,000円 | — | 学生会 | 入会金(入学初年度のみ) | 500円 | |
| | 学 納 金 | 授業料 | 440,000円 | 440,000円 | 学生会 | 会 費 | 7,000円 | |
| | | 設備充実費 | 130,000円 | 130,000円 | 後援会費 | | | 7,500円 |
| | | 実験実習費 | 40,000円 | 40,000円 | 学生健康保険組合費(4ヶ年間分) | | | 8,000円 |
| | | 厚生衛生費(冷暖房費含む) | 15,000円 | 15,000円 | 学生教育研究災害傷害費保険料(4ヶ年間分) | | | 3,300円 |
| | | | | | 学生教育研究賠償責任保険料(4ヶ年間分) | | | 1,360円 |
| 合 計 | | 875,000円 | 625,000円 | 合 計 | | | 27,660円 | |

大学院

| 大学院 | 学 費 | | | 委託徴収金 | | | |
|-----------------|-------|---------------|----------------------|----------|-------------|-----------------------|--------|
| | | 前期(入学手続時) | 後 期 | | | | |
| 大 学 院 工 学 研 究 科 | 学 納 金 | 授業料 | 320,000円 | 320,000円 | 博 士 前 期 課 程 | 学生健康保険組合費(2ヶ年間分) | 4,000円 |
| | | 設備充実費 | 85,000円 | 85,000円 | | 学生教育研究災害傷害費保険料(2ヶ年間分) | 1,750円 |
| | | 実験実習費 | 20,000円 | 20,000円 | | 学生教育研究賠償責任保険料(2ヶ年間分) | 680円 |
| | | 厚生衛生費(冷暖房費含む) | 7,500円 | 13,500円 | 合 計 | | 6,430円 |
| | | | | | 博 士 後 期 課 程 | 学生健康保険組合費(3ヶ年間分) | 6,000円 |
| | 合 計 | | 432,500円 | 438,500円 | | 学生教育研究災害傷害費保険料(3ヶ年間分) | 2,600円 |
| | | | 学生教育研究賠償責任保険料(3ヶ年間分) | 1,020円 | | | |
| | | | 合 計 | | | 9,620円 | |

08-2 主な奨学金制度

福井工業大学奨学金制度

| | 奨学金区分 | 内 容 |
|----|---------------------------|---|
| 1 | 特待生奨学金 | [H27年度以前入学者] 授業料50%減免 [H28年度以降入学者] 学納金50%減免 対 象：学部2年次以上及び大学院博士前期課程 条 件：前学期末までの成績GPA評価3.80以上 募集期間：前期・後期（年2回半期ごと） |
| 2 | [H27年度以前入学者のみ] 準特待生奨学金 | 授業料20%減免 対 象：学部4年生のみ 条 件：前学期末までの成績GPA評価3.50以上 募集期間：前期・後期（年2回半期ごと） |
| 3 | 学習奨励金 | [H28年度以降入学者] 5万円給付 対 象：学部2年次以上（博士前期課程及び博士後期課程は対象外） 条 件：前学期の成績GPA評価3.80以上かつ前学期の修得単位数15単位以上 募集期間：前期・後期（年2回半期ごと） |
| 4 | 育英奨学金 | [H27年度以前入学者] 学納金50%減免 ※該当年度を適用 (前期なら前后期、後期なら後期のみ) [H28年度以降入学者] 学納金30～70万円減免 対 象：学部2年次以上、大学院全学年及び家計急変者 条 件：学業成績優秀であり、経済的理由により修学に困難がある学生又は 本学の定める家計急変事由が発生した学生 募集期間：前期・後期（年2回半期ごと） |
| 5 | [H27年度以前入学者のみ] 学生生活奨学金 | 月額3万円給付 ※該当年度を適用 (前期なら前后期、後期なら後期のみ) 対 象：学部4年生のみ 条 件：経済的理由により修学に困難がある学生、全学期末までの成績GPA評価 2.80以上 募集期間：前期・後期（年2回半期ごと） |
| 6 | 一般選抜奨学金 | [第1種] 授業料全額免除 [第2種] 学納金半額免除 対 象：一般入試前期及びセンター試験利用入試前期の志願者 採用人数：[第1種] 各入試区分につき上位3名 [第2種] 各入試区分につき上位15名 条 件：本学の規程による ※最大4年間。毎年度末に継続審査有り |
| 7 | 推薦選抜奨学金 | 授業料の半額減免 対 象：本学が指定する入試区分を受験した志願者（一部入試区分では希望者のみ） 条 件：本学の規程による ※最大4年間。毎年度末に継続審査有り |
| 8 | 資格取得者特別奨学金 | 入学金相当額(25万円)を還付 対 象：専門・総合学科推薦入試、自己推薦入試、指定校推薦入試による入学者 条 件：本学が指定する資格を入学前年度3月末までに取得し、入学後に資格 の取得を証明できること 募集期間：入学年度の4月末日まで |
| 9 | 私費外国人留学生 奨学金 | 国立大学標準額と 本学学納金との差額を減免 対 象：私費外国人留学生入試による入学生または在留資格「留学」を有する 留学生で国費外国人留学生及び外国政府の派遣する留学生以外の者 条 件：本学の規程による ※毎年度末に継続審査有り |
| 10 | 私費外国人留学生 生活奨学金 | 毎月3万円を給付 対 象：在留資格「留学」を有する留学生で国費外国人留学生及び外国政府の 派遣する留学生以外の者で、学部1年次後期以降、大学院全学年の者 条 件：前学期の成績GPA評価3.5以上、他 本学の規程による 募集期間：前期・後期（年2回半期ごと） |
| 11 | スポーツ特待生奨学金 | 大会成績等により学納金 または授業料減免 ※最大4年間。ただし継続審査あり 対 象：スポーツ・吹奏楽推薦入試による入学予定者及び学部・大学院全学年 条 件：本学の規程による |
| 12 | 災害特別奨学金 | 被害状況により学納金等減免 または災害援助金支給 対 象：入学予定者及び学部・大学院全学年 条 件：本学の規程による 募集期間：随時（ただし、被災日より1年以内） |
| 13 | 兄弟学費減免奨学金 | 最年少にあたる学生の 学納金50%減免 対 象：学園の設置する各学校に兄弟姉妹で在籍している最年少の学生 条 件：学園の設置する各学校に兄弟姉妹で在籍していること 募集期間：毎年4月 |
| 14 | 外国留学奨励奨学金 | 学納金の半額を上限に、 渡航費、生活補助費または 留学先学費の一部補助 対 象：本学学部生2年次以上または工学研究科1年次以上の者で交換留学生 又は認定留学生である者 条 件：本学の規程による |
| 15 | 大学院進学奨励奨学金 | [第1種] 学納金の半額減免 [第2種] 国立大学標準額と本学 学納金との差額を減免 対 象：本学が指定する入試区分で受験した入学予定者 条 件：本学の規程による |
| 16 | 離島・沖縄県出身者 支援奨学金 | 国立大学標準額と 本学学納金との差額を減免 対 象：本学の規程による 条 件：本学の規程による ※最大4年間。毎年度末に継続審査有り |
| 17 | 特別奨励金 | 資格取得もしくは優秀な 成績を修めたクラブ等に 奨励金支給 対 象：学部・大学院全学年 条 件：本学の規程による 募集期間：随時 |

08-3 学生保険

学生健康保険組合

本学では、全学生が組合員となって健康の保持増進を図り、在学中に生じた疾病や不慮の負傷による経済的負担を軽減するための医療互助制度を設けています。医療機関にて診療に要した医療費総額を100分の30の7割(自己負担金の7割)の給付率で乗じた額を、学生健康保険組合から給付しています。

学生教育研究災害傷害保険

この保険は学生が教育研究活動中に被った様々な災害に対する被害救済の措置として設けられた災害補償制度です。本学は、日本国際教育支援協会の賛助会員大学となり、学生教育研究災害傷害保険の加入手続きや事故報告などを行っています。

学研災付帯賠償責任保険

日本国内外において学生(被保険者)が、加入しているコースの対象となる活動中およびその往復において、他人にケガを負わせたり、他人の財物を損壊したことにより、法律上の損害賠償責任を負担することによって被る損害について、保険金が支払われます。

| 対象範囲 | 内 容 |
|------------|---|
| 正課中 | 講義、実験、実習、演習又は実技による授業を受けている間の事故により1日以上通院したとき |
| 学校行事中 | 大学の主催する入学式、学園祭、卒業式などの行事に参加している間の事故により1日以上通院したとき |
| 学校施設内にいる間 | 休憩中や昼休みなど大学の所有、管理する学校施設内にいる間の事故により14日以上通院したとき |
| 課外活動中 | 学校施設内外を問わず、大学が認めた課外活動を行っている間の事故により14日以上通院したとき |
| 通学中・施設間移動中 | 授業や学校行事等へ参加するために住居と学校施設の間を往復する間に起った事故や学校施設と学校施設間の移動中に起った事故により4日以上通院したとき |

08-4 寮・下宿

県外及び県内遠方から通学する学生のために、大学より1 km以内の距離に6つの指定寮と5つの指定下宿があります。食事は朝・夕2食付きで、寮・下宿ならではの年間行事もあります。

| 指定寮一覧 | |
|-------|------|
| 西学園寮 | 五光寮 |
| 貴学寮 | 志学寮 |
| がくし寮 | むつみ寮 |

| 指定下宿一覧 | |
|-----------|----------|
| あつみはうす | 平鍋下宿 |
| フレンドリーハウス | ブルミエール学園 |
| 野坂コーポ | |



五光寮



むつみ寮



ブルミエール学園

09 決算の概要

資金収支計算書

平成29年4月1日から平成30年3月31日まで (単位:千円)

| 資金収入の部 | |
|-------------|------------|
| 科目 | 金額 |
| 学生生徒等納付金収入 | 3,687,808 |
| 手数料収入 | 50,612 |
| 寄付金収入 | 45,159 |
| 補助金収入 | 1,023,897 |
| 資産売却収入 | 1,068,222 |
| 付随事業・収益事業収入 | 62,976 |
| 受取利息・配当金収入 | 172,864 |
| 雑収入 | 136,737 |
| 借入金等収入 | 0 |
| 前受金収入 | 553,969 |
| その他の収入 | 11,422,961 |
| 資金収入調整勘定 | △ 844,581 |
| 前年度繰越支払資金 | 4,082,257 |
| 収入の部合計 | 21,462,881 |
| 資金支出の部 | |
| 科目 | 金額 |
| 人件費支出 | 2,498,455 |
| 教育研究経費支出 | 1,570,891 |
| 管理経費支出 | 576,332 |
| 借入金等利息支出 | 549 |
| 借入金等返済支出 | 52,330 |
| 施設関係支出 | 1,513,559 |
| 設備関係支出 | 410,495 |
| 資産運用支出 | 11,074,423 |
| その他の支出 | 2,290,472 |
| 資金支出調整勘定 | △ 688,379 |
| 翌年度繰越支払資金 | 2,163,752 |
| 支出の部合計 | 21,462,881 |

貸借対照表

平成30年3月31日 (単位:千円)

| 資産の部 | |
|-------------|-------------|
| 科目 | 金額 |
| 固定資産 | 33,394,635 |
| 有形固定資産 | 20,426,370 |
| 特定資産 | 10,234,809 |
| その他の固定資産 | 2,733,456 |
| 流動資産 | 2,459,716 |
| 資産の部合計 | 35,854,351 |
| 負債・純資産の部 | |
| 科目 | 金額 |
| 固定負債 | 1,042,946 |
| 流動負債 | 1,441,035 |
| 負債の部合計 | 2,483,980 |
| 基本金 | 40,414,624 |
| 繰越収支差額 | △ 7,044,253 |
| 純資産の部合計 | 33,370,371 |
| 負債及び純資産の部合計 | 35,854,351 |

事業活動収支計算書

平成29年4月1日から平成30年3月31日まで (単位:千円)

| | | 科目 | 金額 | |
|---------------|-------------|-------------|-----------|--------|
| 教育活動収支 | 事業活動収入の部 | 学生生徒等納付金 | 3,687,808 | |
| | | 手数料 | 50,612 | |
| | | 寄付金 | 55,704 | |
| | | 経常費等補助金 | 957,439 | |
| | | 付随事業収入 | 62,279 | |
| | 雑収入 | 151,288 | | |
| | 教育活動収入計 | 4,965,130 | | |
| | 事業活動支出の部 | 人件費 | 2,524,421 | |
| | | 教育研究経費 | 2,435,491 | |
| | | 管理経費 | 720,311 | |
| 徴収不能額等 | | 14,844 | | |
| 教育活動支出計 | | 5,695,068 | | |
| 教育活動収支差額 | △ 729,937 | | | |
| 教育活動外収支 | 事業活動収入の部 | 受取利息・配当金 | 172,864 | |
| | | その他の教育活動外収入 | 0 | |
| | | 教育活動外収入計 | 172,864 | |
| | 事業活動支出の部 | 借入金等利息 | 549 | |
| | | その他の教育活動外支出 | 36 | |
| | | 教育活動外支出計 | 585 | |
| | | 教育活動外収支差額 | 172,279 | |
| | 収経支常 | 経常収支差額 | △ 557,659 | |
| | 特別収支 | 事業活動収入の部 | 資産売却差額 | 52,667 |
| | | | その他の特別収入 | 66,474 |
| 特別収入計 | | | 119,141 | |
| 事業活動支出の部 | | 資産処分差額 | 26,924 | |
| | | その他の特別支出 | 7 | |
| | | 特別支出計 | 26,931 | |
| 特別収支差額 | | 92,210 | | |
| 基本金組入前当年度収支差額 | | △ 465,449 | | |
| 基本金組入額合計 | | △ 471,859 | | |
| 当年度収支差額 | | △ 937,309 | | |
| 前年度繰越収支差額 | △ 8,590,960 | | | |
| 基本金取崩額 | 2,484,016 | | | |
| 翌年度繰越収支差額 | △ 7,044,253 | | | |
| (参考) | 事業活動収入計 | 5,257,136 | | |
| 事業活動支出計 | 5,722,585 | | | |

10-1 図書館

図書館は、年間入館者数約12万人の利用があり座席数319席、面積1,857㎡の規模を有し、蔵書数約16万冊・定期刊行物440タイトル・視聴覚資料約3,500点と十分に学術情報資料を確保しています。また、他大学とのネットワークを形成したり、県内の公共図書館と相互協力協定を結び、学生だけでなく社会人や地域の方にも積極的に学習の機会を提供しています。

蔵書数（視聴覚資料、電子書籍除く）

(単位:冊)

| | 一般書 | 専門書 | 計 |
|----|--------|--------|---------|
| 和書 | 68,244 | 78,584 | 146,828 |
| 洋書 | 4,881 | 13,131 | 18,012 |
| 計 | 73,125 | 91,715 | 164,840 |

| 雑誌 | (単位:種) | 視聴覚資料 | (単位:点) |
|-----|--------|-------|--------|
| 和雑誌 | 434 | ビデオ | 1,083 |
| 洋雑誌 | 12 | DVD | 1,307 |
| 計 | 446 | その他 | 1,098 |
| | | 計 | 3,488 |

【ラーニングcommons】

図書館内には、グループ学習、パソコンでの情報収集やレポート作成、プレゼンテーション機器を用いた発表練習など、幅広い学習に利用できるラーニングcommonsを設けています。

| | |
|------|--|
| 場 所 | 大学2号館3階・4階、 大学11号館 (FUTタワー) 3階 ラーニングcommons |
| 開室時間 | 平日(月～金曜日) / 8:30～22:00 土曜日 / 8:30～17:30 |

貸出冊数

(単位:冊)

| 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 |
|--------|--------|--------|
| 17,254 | 14,692 | 12,243 |

入館者数

(単位:人)

| 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 |
|---------|---------|---------|
| 146,495 | 138,863 | 137,293 |

学外利用者数

(単位:人)

| 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 |
|--------|--------|--------|
| 162 | 153 | 228 |



10-2 クラブ活動支援センター

クラブ活動支援センターは、全国大会出場や全国大会で上位入賞を目指す指定クラブ(14クラブ)の学生が、クラブ活動と修学を両立できる環境づくりと活動支援を行っています。

1. クラブ学生の活動支援

クラブ学生が、日々のトレーニングや練習、また公式大会に集中できるような修学支援や、学生生活に関する支援に取り組んでいます。特に、公式戦等で授業に参加できない場合の教育的配慮を行う支援を学務課と協働で実施しています。

2. 情報の公開

クラブの活動計画や成績を、教職員・学生、また同窓会や後援会の皆様に対して、公式ホームページやSNS等により、積極的な情報発信を行います。

3. 平成29年度の主な成績（全国大会上位入賞及び記録）

| クラブ名 | 成績・記録など |
|-------|---|
| 馬術部 | ・全日本ジュニア障害馬術大会2017 スピードアンドハンディネス中障害B 3位 ・全日本学生馬術選手権大会 5位 など |
| カヌー部 | ・2017世界カヌーマラソン選手権大会 出場 ・全日本学生カヌースプリント選手権大会 男子カナディアンペア200m決勝 2位 など |
| ゴルフ部 | ・2017中京テレビ・ブリジストン レディースオープン 出場 ・トップ杯東海クラシック 出場 など |
| 陸上競技部 | ・2017日本学生陸上競技個人選手権大会 男子10000m競歩 6位 など |
| ホッケー部 | ・U-21男子日本代表 スルタンジョホールカップ 出場 ・全日本大学ホッケー王座決定戦 4位 など |

〈その他全国大会出場クラブ〉

剣道部(全日本学生剣道選手権大会 など)
柔道部(全日本学生柔道優勝大会 など)
空手道部(全日本学生空手道選手権大会 など)
硬式野球部(全日本大学野球選手権大会 ※神宮出場最多記録(7年連続40回)
バレーボール部(秩父宮賜杯全日本バレーボール大学男子選手権大会 など)
水泳部(日本身体障がい者水泳選手権大会 など)
少林寺拳法部(少林寺拳法全日本学生大会)

10-3 情報メディアセンター

情報メディアセンターは、学内コンピュータネットワークを含む情報システム、情報関連実習等の運用管理及び、情報システムを利用した教育、研究の支援を行う組織です。当センターでは、学生がより良い環境で学習できるよう、新たなシステム導入の検討や、ネットワーク整備、ノートパソコンに関する相談等を行っております。また、情報関連実習室は授業終了後に学生に開放していますので、様々なアプリケーションを利用してレポートの作成等を行うことができます。

【CAD実習室(6-304/305)】

コンピュータを用いて、機械、電気や建築、土木分野の図面を制作する授業に利用されます。AutoCAD、AutoDeskInventorといったCADソフトウェアを導入した高性能なパソコンの他、レーザープリンターや視聴覚機器等が整備されています。

【携帯端末実習室(6-201、207、405)、スタジオ(6-206)】

学生所有のノートパソコンをネットワークに接続し、コンピュータリテラシ、プログラミング等の授業に利用されます。パソコンの操作法、課題等は、実習室前面のスクリーンと卓上の液晶ディスプレイに表示されますので、学生は自身のノートパソコンの画面と見比べながら授業を受ける事ができます。また、3つの実習室を結ぶスタジオが設けられており、複数実習室同時に授業を行う事が可能です。

| | |
|------|--|
| 場 所 | 大学6号館5階 |
| 開室時間 | 平日(月～金曜日)／8:30～17:30 土曜日／8:30～13:30 |

【MM実習室(6-307)、MC実習室(6-407)、スタジオ(6-306)】

3DCG、Web、グラフィック、アニメーション、映像編集等のメディアデザイン関連の授業に利用されます。メディア関連の実習室群は、Adobe製品群、Shade、Final Cut 等様々なメディアデザイン教育に対応するソフトウェアが準備され、Mac Proを設置したMM実習室と、同様のソフトウェアとVectorWorks、RhinoCeros等3Dモデリングソフトウェアが準備された Windows 機を設置したMC実習室から構成されています。また、2つの実習室を結ぶスタジオも設置されており、2実習室同時の授業を行う事も可能です。

その他、FUTタワー各講義室に有線LAN対応の情報コンセント、学生ロビー、図書館、ラーニングコモンズ等に有線、無線LANを設置しており、学生がネットワークを利用することができるようになっています。



CAD 実習室

10-4 キャリアセンター

キャリアセンター所属の専任スタッフを学科ごとに配置し、専用ブースを設けて随時、個別相談を実施。就職支援スケジュールによるきめ細かな指導により、本人の志向や能力に合った企業を親身になって紹介します。

1. 個別指導

就職担当教員・キャリアカウンセラーが学生一人ひとりに合った志望業種や適性を見極めながら、マンツーマンで指導を行っています。就職活動の方法、企業情報の入手方法、履歴書・エントリーシートの書き方、面接対策、マナーなど、進路相談や就職活動を全面的に支援しています。

| | |
|------|--|
| 場 所 | 大学1号館3階 |
| 開室時間 | 平日(月～金曜日)／8:30～17:30 土曜日／8:30～13:30 |

2. 就職支援スケジュール

| | |
|----|--|
| 1年 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 新入生キャリアガイダンス(自己発見レポート実施) ・ 自己発見レポート活用ガイダンス |
| 2年 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 企業人材養成講座 (企業で活躍する本学OBからのアドバイス) ・ 業界研究セミナー(企業見学) |
| 3年 | <ul style="list-style-type: none"> ・ インターンシップ(事前教育、就業体験、事後教育) ・ 就職ガイダンス1～9(5月～2月) ・ CAREER APPROACH (職業興味、価値観等の把握) ・ 個別進路希望調査・個別指導(学科別) ・ 産業・職業研究セミナー(企業トップ講演) ・ 個別企業説明会 ・ 就職試験対策講座(コミュニケーション・自己分析・メイクアップ・ヴォイストレーニング・SPI対策等) ・ 証明写真撮影会 ・ 業界・職種研究会 ・ 都市圏就職活動セミナー ・ 学内企業合同説明会(3月中旬) |
| 4年 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 個別企業説明会 ・ 就職内定者フォローセミナー |

3. 資格取得支援

各学科から取得できる資格や、内容、試験日程等を詳しく紹介。学内外の講師による資格取得のための特別講座を開講しています。資格・試験の難易度に応じ福井工業大学特別奨励金が支給されます。

| 大学教授陣による資格取得支援 | 学外講師による特別講座 |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ◎電気工事士(第1種・第2種) ◎2級電気工事施工管理技術検定(学科試験) ◎基本情報技術者試験 ◎CGエンジニア検定(エキスパート・ベーシック) ◎公害防止管理者(水質) ◎放射線取扱主任者(第1種・第2種) (エックス線作業主任者への講座を含む) ◎非破壊試験技術者(超音波深傷レベル1) ◎環境測定分析士(3級) | <ul style="list-style-type: none"> ◎基本情報技術者試験対策講座 ◎宅地建物取引士受験講座 ◎二級建築士取得支援講座 ◎二級建築施工管理技士試験対策講座 ◎二級土木施工管理技士試験対策講座 ◎公務員試験対策講座 |

10-5 地域連携研究推進センター(研究部門)

地域連携研究推進センターは、福井工業大学の教授陣が持つ専門知識と最先端設備を生かして、企業や公的機関との技術提携を促進します。

1. 委託研究・試験研究、共同研究の促進

産業界との連携を密にしながら、求められる技術開発に大学全体で取り組むため、地域連携研究推進センター運営委員会を検討。各専門分野の教授陣に研究依頼を行い成果をあげます。

2. 各業界への技術移転の推進

最先端の研究成果を即座に社会・産業界へと還元すべく、産学共同特許(工業所有権)のライセンスなど技術移転を促進。企業と大学(研究グループ)との知的所有権に関する契約検討、事務・管理も担います。

3. 新産業の創出、新企業のバックアップ

技術および人材のインキュベータとして、事業化・製品化に向けた研究・開発をコーディネート。

"F.U.T 発ベンチャー事業"も視野に入れ、新産業創出・新規企業の支援に努めます。

10-6 インターナショナルセンター

1. 国際交流推進

海外提携大学との教員・学生及び研究面での交流推進及び協定の締結等、本学の国際交流の活性化を目指しています。

2. 在学生の留学支援

語学研修プログラムの実施及び短期留学に関する支援を行います。

3. 留学生受入推進

海外からの留学生の受け入れ手続きの支援、本学に入学後の留学生の生活支援や個別カウンセリングを行っています。本学には、現在、9カ国111名の留学生が在籍しています。留学生が本学で充実した留学生活を送れる環境づくりを目指しています。

| | |
|------|--|
| 場 所 | 大学11号館(FUTタワー)4階 |
| 開室時間 | 平日(月～金曜日)／8:30～17:30 土曜日／8:30～13:30 |



新入留学生歓迎会

10-7 テクニカルサポートセンター

テクニカルサポートセンターでは、工業系大学として必要な実験・実習・ものづくりのサポートを実践的に授業の中に取り入れ、常に学生の創作意欲を高める取り組みを行っています。ここでは、学生が金属加工実習で学ぶマシニングセンタやNC付フライス盤、産業ロボットなどの機器が備わっております。また、教材にハイブリッド車を用いるなど基礎から実際に役立つ技術までを学ぶことができます。特に、産業界で実際に使用されている機器を使い少人数制で行われる実習事業では、知識と技術を徹底的に身につけ、全学科で対応できる製造技術や制御技術を習得することができます。また、モノづくりに資金的な援助を行う「SSLプロジェクト」を推進しています。予算管理から製作まで学生が一体となって運営するもので「鳥人間」や「ENE1GP電気自動車」などのプロジェクト活動を行っています。



鳥人間プロジェクト

◎SSLプロジェクト

SSLプロジェクトは、授業でも部活動でもない、学生たちが自分からやってみたいプロジェクトに対し、大学施設のファクトリーを開放し、工作機械やパソコンを自由に利用し学生たちの思い描く創造に取り組んでもらうシステムです。プロジェクトの内容によっては助成金の補助があります。

※SSLは、Student Space Laboratoryの略

SSL公認プロジェクト

| | |
|---|---------------------|
| 1 | 鳥人間プロジェクト |
| 2 | ENE1 GP 電気自動車プロジェクト |
| 3 | 模型製作プロジェクト |

【SSLファクトリー】

SSLファクトリーでは、機械工作、模型製作、人力飛行機・自作自動車で大会に挑戦するために、様々な創作活動が行われています。

| | |
|------|---|
| 場 所 | SSL 1号館 (デザイン工房)・ SSL 2号館・SSL 3号館 |
| 開室時間 | 平日 (月～金曜日) / 9:00～19:00 土曜日 / 9:00～13:00 |

10-8 FUT福井城郭研究所

FUT福井城郭研究所は、日本の近世城郭や城下町とまちづくりを総合的に研究することを目的に、平成25年本学図書館内に設置されました。

活動事業内容

1. 文献資料の蒐集: 福井城、福井城下町および日本の近世城郭や城下町に関する文献資料、研究図書などの蒐集と整理。
2. 城郭、城下町に関わる調査研究。
3. 研究年報・報告書、論文集などの刊行。
4. 講演会やシンポジウム、展覧会などの開催。
5. 福井のまちづくりに対する提言や実践。



10-9 学習支援室

学習支援室は、学びのコーチ役として本学学生の学力向上をお手伝いし、相談内容に応じた指導を行います。何よりも自分から進んで問題に取り組み、解決し、大学で学ぶことの楽しさの動機付けの一助になればと考えております。

| | |
|------|--|
| 場 所 | 大学11号館 (FUTタワー) 5階 |
| 開室時間 | 月曜日～金曜日 / 9:00～17:30 土曜日 / 9:00～12:00 |
| 科 目 | 数学、物理、化学、専門科目 (英語についてはSPEC推進室にて対応) |

10-10 教職支援室

教職支援室は、将来教員を目指す学生のアドバイザーとして、教員免許取得に向けての履修のあり方、教育実習・介護等体験の計画・相談、教員採用試験対策など、合格に向けての相談に応じます。

| | |
|------|--|
| 場 所 | 大学11号館 (FUTタワー) 5階 |
| 開室時間 | 月曜日～金曜日 / 9:00～17:30 土曜日 / 9:00～12:00 |

10-11 SPEC推進室

本学では平成25年度より、新たな英語教育プログラム SPEC (Special Program for English Communication) を開始しました。このプログラムの目的は海外への出張から商談・取引、プレゼンテーションまで、世界の現場でコミュニケーションがとれるエンジニア・ビジネスパーソンを育成することにあります。FUTタワー4階に位置するSPEC推進室は常勤外国人教員室であるとともに本プログラムに関わる事業全般を企画・実施するための拠点としての機能を担っています。SPEC推進室では正規の授業以外に次のような支援を行っています。

1. 英会話カフェ

月曜日から金曜日までの5限目と各外国人教員のオフィスアワーに学生の英会話力向上を支援する目的で「英会話カフェ」をシナジー館4階のStudy Lounge Iで開催しています。

【Study Lounge I】

学生のための国際交流フリースペースです。5限目の時間には、ネイティブスピーカーの教員と学生が自由にできる英会話カフェを実施しています。また、季節ごとに国際色豊かなイベントが開催されます。

【Study Lounge II】

10人程度収容の多目的施設です。色彩豊かな椅子とテーブルがあり、学生同士のミーティングなど、幅広く活用されています。



Study Lounge I



Study Lounge II



CALL教室

2. 多文化体験イベントの企画・実施

多文化、特に英語圏の文化を体験する目的で、クリスマスパーティーなどのイベントを年に数回行っています。外国人教員から文化や慣習についての解説を聞いたり、本学に在籍している留学生と交流したりしています。

3. 海外語学研修の企画・実施

春季オーストラリア、夏季アメリカ、イギリスで語学研修を実施しています。参加者は現地の家庭でホームステイをしながら研修先で英語研修を受けることとなります。研修を修了すると、学年に応じて「海外語学研修I~IV(各4単位)」が英語選択科目の単位として認定されます。

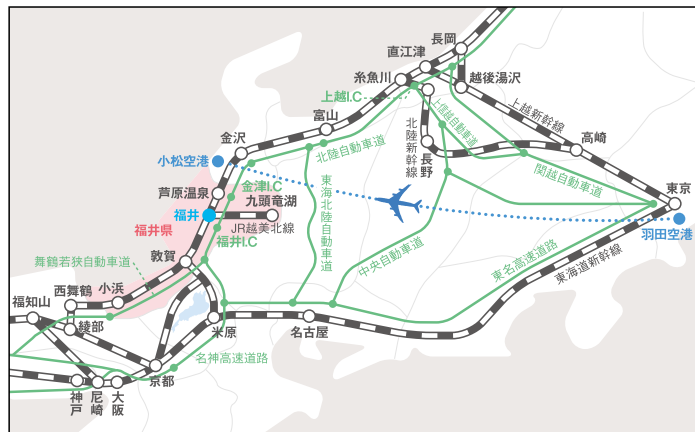
10-12 学生生活支援室

学生生活支援室では、学生相談を担当しています。学生が有意義な大学生活を送れるように、入学前から卒業までの間、カウンセリングを中心に学生支援を行っています。専門のカウンセラー(臨床心理士等)を4名、教員カウンセラー10名で対応しています。また、障害学生支援(修学支援)の窓口も担っています。

| | |
|------|------------------------|
| 場 所 | 大学10号館(FUTシナジー館)3階 |
| 開室時間 | 平日(月~金曜日) / 9:00~17:00 |

すべてを学生・生徒のために

アクセスマップ



JR福井駅までの所要時間

- 東京から 約2時間 羽田空港から飛行機、小松空港からはバスを利用
- 名古屋から 約1時間半 JR新幹線・特急利用
- 京都から 約1時間半 JR特急利用
- 大阪から 約2時間 JR特急利用
- 金沢から 約1時間 JR特急利用
- 富山から 約1時間半 JR新幹線・特急利用
- 長野から 約2時間 JR新幹線・特急利用